NUEVA

ヌエバでチャンピオンを目指せ!!


国際ハンドボール連盟公認球

日本リーグ唯一の公式試合球

全日本大学選手権(インカレ)
唯一の公式試合球



日本ハンドボール協会検定球



本大会試合球

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H300WRB　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●3号球●32枚パネル●白×赤×青×黒

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H200WRB　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●2号球●32枚パネル●白×赤×青×黒

アテネオリンピックを前にして



(財)日本ハンドボール協会 副会長　市原則之

渡邊新会長体制となり早一年が経過しました。その間日本ハンドボール協会が関わる国内外の諸事業は、大西専務理事のリーダーシップにより滞りなく執行されました。

特に、昨年9月に神戸市で行われたアテネオリンピックアジア地区予選会は、兵庫県ハンドボール協会の一丸となった運営で、IHF（国際ハンドボール連盟）、並びにAHF（アジアハンドボール連盟）から高い評価を受けた素晴らしい大会でした。

これは、1994年の広島アジア競技大会や、1997年の熊本での男子世界選手権大会等、国内各地で開催された数々の国際大会の運営がノウハウとして蓄積され、日本ハンドボール界の財産として受け継がれているものだと思います。

しかしながら、大会運営という手段での成功も、悲願のオリンピック出場という目的は、またしても達成することが出来ず、日本ハンドボール界のパワー不足を真摯に認めるところです。

8月に開催されるアテネオリンピック大会を前にして、出場できない悔しさを今一度深く胸に刻み、神戸予選の男女ナショナルチームの感動的な健闘を無にしないよう、次の北京オリンピック予選に繋げていかなければと決意を新たにしています。

世界のハンドボールはここ数年急激な発展を遂げ、150の国と地域がIHFに加盟し、アジア地区においても今や33の国や地域に普及されています。

アジア地区の国際競技力は、数年前までは東アジア地域が高レベルで、オリンピック出場も韓国が一歩リードし、それを日本と中国が追うという図式でありましたが、今では西アジア地域や中央アジア地域のレベルが急速に上がり、オリンピック大会や世界選手権大会のアジア予選に勝ち抜くことは至難となりました。

幸い、昨年12月にクロアチアで行われた第16回世界女子ハンドボール選手権大会に繰り上げ出場した全日本女子チームの活躍は、IHF役員の高い評価を受けました。

また、松井監督率いる新生男子全日本チームは、田口前監督の遺産を引き継いで、本年2月にカタールで行われた第19回世界男子ハンドボール世界選手権大会のアジア地区予選を見事勝ち抜き、4大会ぶりに本大会への出場権を獲得いたしました。松井新監督は期待通り、本人の持ち味である見事なダッシュで、幸先よいスタートを切ってくれました。

こうした中、今後においても強化事業はしっかりした理念のもと、明確な活動方針を掲げ、ナショナルトレーニングシステムを基盤に、小・中・高生の中から「第2、第3の宮崎大輔選手」を数多く発掘し、抜本的なジュニア育成策を講じ、次々と優秀なアスリートを世界大会に送り出していかなくてはなりません。関係者のさらなる奮起を期待いたします。

これらの諸事業には、多額の財源が必要です。しかし、市場経済は相変わらず企業スポーツに厳しく、最早、リーグ加盟企業の脛は齧れません。現在、国やスポーツ振興基金から戴いている補助金や助成金は、今後年々減少していくと思われます。

ハンドボール関係者はこうした社会情勢を正しくご認識いただいて、強化事業のバックアップを強く願うところです。併わせて、従来の発想の延長から脱却し、自己のマネジメント能力を高め、「自立」のため各界や各セクションとの「連携」を深め、ハンドボール界のパワーアップにも努めていただきたいと思います。全国のハンドボール愛好者の皆様におかれましても、よろしくご支援の程お願い申し上げます。

また、オリンピックに賭ける少年・少女ハンドボーラーの夢の実現のため、スポーツ振興投票くじ（toto）をご理解頂き、ご参画を併わせてお願い申し上げる次第であります。

男子世界選手権チュニジア大会 出場権獲得！

2月12日～21日までカタール（ドーハ、カリファアリーナ）で行われた表記大会に於いて日本ナショナルチームは決勝戦でクウェートに破れはしたものの堂々の準優勝。2005年にチェニジアで開催される第19回男子世界選手権大会への出場権を獲得した。今大会は登録ミスから韓国、中国などが不参加で、東アジアからは日本のみが出場し、他は全て地元西アジアのチームであった。

大会はA組（クウェート、イラン、日本、アラブ首長国連邦、オマーン）、B組（サウジアラビア、カタール、バーレーン、ヨルダン）によるリーグ戦で対戦し、上位2カ国による決勝トーナメントで行われた。そして、上位3カ国に2005年世界選手権の出場権が与えられる。

オリンピック神戸予選終了後に松井監督が替わり、決して準備が十分とは言えない中、しかも西アジア開催。イラク情勢で緊迫した地域での大会は予断を許さない。中東の笛に泣かされ続けてきた日本としては、神戸での雪辱を濯ぐ絶好のチャンスでもあった。選手も多少入れ替わったがオリンピック神戸予選までに積み重ねた戦力は確実に上がってきており堂々の準優勝。悲願の北京オリンピック出場に向けた長いスタートが切られた中、この勝利の意味は大きく、更なる飛躍を期待したい。


写真提供：スポーツイベント社

最終順位					
	1位　クウェート	2位　日本	3位　カタール	4位　バーレーン	5位　サウジアラビア
	6位　アラブ首長国連邦	7位　イラン	8位　ヨルダン	9位　オマーン	

監督のコメント

第11回アジア選手権大会兼世界選手権アジア予選に参加して

松井 幸嗣（日本体育大学）



平成16年2月12日から21日までカタール・ドーハに於いて第11回アジア選手権大会兼世界選手権アジア予選が開催された。去年9月神戸市で開催されたオリンピック予選では宿敵・韓国と引き分けながらも出場権をとることが出来なかった。その悔しさをバネに気持ちを新たに選手団一同、一致団結して大会に臨んだ。大会は来年1月の第19回世界選手権（チュニジア）の予選を兼ねた大会でもあり、1997年熊本で開催された世界選手権以降、3回続けて出場権を逃しているだけに是が非でも出場権獲得が私に与えられた使命でもあった。韓国・中国・チャイニーズタイペイなどの東アジア諸国の不参加もあり、中東諸国だけ参加ということで戦術的なことを考えるとポイントを絞りやすい面もあった。しかしその反面、中東諸国の地力は充分に認めつつも、それ以上にここ数年日本が苦しめられてきた大会運営・レフェリーのジャッジなどに不公平がないか、普通のハンドボールがさせてもらえるのかどうか、なども不安材料になっていた。「普通」のハンドボールをさせてもらえば日本の優位は明らかであると確信していた。

2月16日に予選リーグが終了し、日本は3勝1敗でA組2位になり、19日の準決勝で地元カタールと対戦した。結果は27－23で勝利し、この時点で世界選手権出場のキップを手に入れた。21日の決勝戦では試合開始早々からのミスの多さが目立ち、クウェートに主導権を握られ敗れた。しかし結果として優勝は逃したものの、準優勝そして4大会ぶりの世界選手権出場権獲得。選手は本当によく頑張ってくれたと思う。大会に臨むにあたって僅か2週間弱の強化合宿期間にもかかわらず、精神面での強さ、技術・戦術面の充実ぶりなどを前面に出し、様々な苦難を乗り越えて戦ってくれた選手たちに感謝の気持ちでいっぱいである。

北京オリンピック出場、上位入賞を目指す全日本にとって世界選手権大会はひとつの通過点であるかもしれないが、チーム・各自が課題をしっかり持って確実に一つ一つ達成出来るよう、目標に向かって粉骨砕身するつもりである。

最後になりましたが、関係者各位ならびに応援して下さった皆様に深く感謝し、お礼を申し上げます。

キャプテンのコメント

アジア予選を終えて



中川 善雄（大崎電気）

2月12日からカタールで開催された世界選手権アジア予選出場メンバーは、神戸で開催されたアテネオリンピックアジア予選のメンバーとほぼ変わらず、多少の入れ替えはあったものの、選手全員大きな怪我もなく現地に乗り込みました。今回から新しいスタッフに替わっての初大会であり、また日本のハンドボール界に置いても大きな意味を持つ大会でした。

神戸でのオリンピック予選は、韓国との得失点差で本大会への出場を逃し、オリンピック出場という目標の為に長い年月トレーニングを積んできた私達にとっては何とも言えない結果に終わりました。ここ数年、日本は数々の大会で世界への切符を手にしていないのが現状であり、スポーツの中でもハンドボールへの関心が薄れている様に思われます。それは、選手全員が感じている事であり、"ここで変えなければ！"という思いを胸に、まさに"日本"という名のプライドを背負って今回のアジア予選の戦いに挑みました。

試合は初戦のクウェートに敗れはしたものの、3勝1敗の2位で予選グループを突破し、決勝リーグ進出しました。初戦は開催国のカタールでしたが、中東では、前回の世界選手権予選で苦い思いをしているだけに不安と強い猜疑心との戦いでもありました。日本はこの試合で世界選手権出場を手にしたいと、チームの士気も高く、前半を15－13の日本リードでハーフタイムを迎えました。ご存じの通り、ここで事件が起こり、2時間近くの中断の末、後半が開始されました。普通では考えられない出来事に今までのハードな合宿やタフな遠征試合が経験として生かされたと思います。試合中、私は第三者の感覚に陥り、選手一人一人が力強く、そして頼もしく思えたほどです。そしてこの試合を見事勝利し、念願の"世界への切符"を手に入れることができました。

今大会は新チームになって間も無く、今までの全日本の財産が生かされた大会だったと思います。そして、日本国内のレベルも上がっていると実感できました。ただ、個人的に一つ思う事は、もっと日本のハンドボール界は団結しなければならないと思いました。4大会ぶりの世界選手権出場のニュースも一部の関係者だけの出来事のように捉えられているのではないかと感じています。本来ならば、日本のハンドボーラー全員が喜びを分かち合う"一員"になる必要があるのではないかと思います。それは趣味でハンドボールをやっている人、小、中、高、大学生にいたるまで、自分の出来事の様に思える"競技団結力"が必要だと思います。生意気ですが、そうなる事が競技力向上、メジャー化、ひいては中東諸国で起こる問題も正常化につながるのではないでしょうか。まずは、ハンドボーラーにとって関心のある競技になる様、今後も努力していきたいとお思います。

最後に今回ご尽力賜りました関係者の方々、そして家族にお礼を言いたいと思います。ありがとうございます。

日本チーム　戦いの記録

◆予選リーグ◆

第1戦（2月12日(木)）

日　本　23（10-16, 13-10）26　クウェート

日本は立ち上がり動きが固くシュートミスなどで得点できず、逆にクウェートにボールを運ばれ、たちまち1－4と苦しい展開になってしまう。中川、下川で必死に追い上げるが、ミスが重なり点差を広げられ10－16で前半を終了する。後半に入り、日本はディフェンスを固めてスピーディーな速攻を展開し、除々に点差を縮めていき、田場、岩本の活躍で残り5分には3点差まで詰め寄った。しかしクウェートの試合運びにうまくかわされ、結果的には追いつけず23－26という結果に終わり、クウェートに屈することとなった。

【日本の得点】中川6、田場5、下川3、山口2、宮崎2、岩本2、田中2、阿部1

第2戦（2月13日(金)）

日　本　27（15-11, 12-10）21　オマーン

日本は立ち上がりからオマーンの攻撃を足を生かして良く守り、そこから速攻につなげ5－1とリードする。日本はこのままのペースでいきたいところであったが、シュートミスやレフェリートラブルからの警告や退場などで自分たちのペースを掴めず点差を広げられないまま15－11で前半を終了する。後半に入ってもレフェリーの笛に苦しめられなかなか点差が広げられない日本であったが、ディフェンスを踏ん張り、オマーンの攻撃を良く凌ぎ、田中の速攻や山口のポストシュートの得点などで加点していき、結局27－21で今大会嬉しい初勝利を挙げた。

【日本の得点】山口5、田中5、田場4、中川4、岩本3、下川2、野村1、宮崎1、羽賀1、東1

第3戦（2月15日(日)）

日　本　35（17-12, 18-11）23　アラブ首長国連邦

日本にとっては負けると後がない大事な試合。守りながらの速攻を武器とする相手に対し、日本は山口のポストプレーを中心に確実なセットオフェンスで攻めて優位に立った。後半、相手の3：3ディフェンスでリズムを崩しかけたものの、GK高木の好守や田中の積極的な攻撃で持ち直し、リードを



写真提供：スポーツイベント社

広げた。日本は60回を超える攻撃回数を記録し、大量35点をマーク。一気に重苦しいムードを振り払った。

【日本の得点】山口6、中川・田場5、宮崎・田中4、下川・羽賀3、松林2、阿部・岩本・東1

第4戦（2月16日(月)）

日　本　28（9- 9, 19-12）21　イラン

予選リーグ最終戦を勝利で飾りたい日本は、上背のあるイランの一線ディフェンスにポストの動きを止められ、また相手GKの好守にあい、思うように得点が伸びず9－9で前半を終了する。後半に入り、エース宮崎が大爆発。個人技が冴えわたり、一気にイランを引き離す原動力となった。守っても山口、羽賀を中心としたDF陣が頑張り、積極的なディフェンスでイランの攻撃を押さえた。イランを下し、グループ2位が確定。ベスト4進出が決定した。

【日本の得点】宮崎7、山口・田場・中川4、岩本3、松林・永島2、田中・羽賀1

《A組順位》1位 クウェート、2位 日本、3位 アラブ首長国連邦、4位 イラン、5位 オマーン

この結果、クウェート、日本が決勝トーナメント進出。

＜準決勝＞（2月19日(木)）

日　本（A組2位）27（15-13, 12-10）23　カタール（B組1位）

アジア選手権準決勝のカタール戦は、岩本のサイドシュートで日本が先制。その後もキャプテン中川を中心とした小気味よい攻撃でリードを保ち続けた。カタールも地元の熱狂的な声援を背に、日本に決定的なリードを許さず奮闘。前半は15－13と日本の2点リードで折り返した。しかし、ハーフタイムにジャッジに不満をもった地元・カタール協会が執拗な抗議をし試合は一時中断、約2時間後に後半がスタートとなった。モチベーションの低下など、精神的な影響が心配されたものの、短時間に気持ちを切り替えた日本セブンは、中川のミドル、下川の速攻で好ダッシュ。再び2点差に迫られる場面もあったものの、山口、羽賀、永島らディフェンス陣も懸命に踏ん張って、ジワジワとリードを広げ、27－23と4点差でタイムアップ。感動のクライマックスを迎えた。中東ならではの厳しい戦いを強いられながらも、気持ちを切り替え、たくましく戦った日本セブンに、惜しみない拍手を贈りたい。



写真提供：スポーツイベント社



写真提供：スポーツイベント社

【日本の得点】中川8、田場、下川4、岩本、山口、宮崎3、永島、松林1

＜決勝＞（2月21日(土)）

日　本　24（9- 16, 15-12）28　クウェート

両者互角の立ち上がりとなったが、7mTの失敗や相手GKの攻守に阻まれてクウェートのペースで試合は進み、予選リーグと同じ展開となった。予選リーグで負けている相手であり、この試合に勝って優勝したい日本であったが、焦る気持ちがミスにつながり点差を広げてしまう。結局9－16と7点ビハインドで前半を終了する。後半に入っても相手のペースで試合は進み、点差を縮められず敗色のムードが漂ったが、セットでの野村の活躍で日本はクウェートに食い下がる。そして日本はクウェートの足が止まりはじめたのをきっかけにデフェンスを固め、速攻に転じるスピード攻撃で勝負に出てこの作戦が見事に的中。日本のスピード速攻が決まりだし、みるみるうちに3点差まで詰め寄った。このまま逆転ムードであったが、1点差の場面ではレフェリーの笛に苦しめられどうしても追いつくことができず、終盤のオールコートマンツーマンも及ばず、結局24－28で敗れ優勝を逃した。

決勝戦では同じ相手に同じように負け課題が残ったものの、1991年大会以来の2位を獲得し、中東各国に“日本強し”をアピールすることができた。そして何よりもこの危険な状況の中、中東の地で勇敢に戦った選手達の強い精神力は特筆され、まさに真の“日本代表選手”と呼ぶに相応しい活躍であった。ここで得た自信をもとに、次回の大会でクウェートへのリベンジを誓い、更には世界選手権での活躍を目標として新たなるチャレンジをしたい。

【日本の得点】野村6、山口5、中川4、岩本3、宮崎3、下川1、田中1、東1

平成16年度 事業計画

平成16年4月1日　㈶日本ハンドボール協会

現在日本のハンドボールを取り巻く状況は、依然として厳しい状態にありますが、構造改革プロジェクト21をさらに推進させ、将来に夢を託せるハンドボール界を築いていきます。
悲願のアテネオリンピック出場に向けて、4年前よりアテネ特別委員会を立ち上げ、大きなエネルギーで取り組んできましたが、昨年アジア予選においてその目的は達成することはできませんでした。しかしながら将来に繋がる戦いであったことは事実であり、ここでひるむ事なく北京に向けてナショナルチームの強化を進めていかなければなりません。また、強いナショナルチーム作りの基礎であるジュニア層の育成と普及は急務であり、ナショナルトレーニングシステムのなお一層の充実を都道府県協会・連盟の協力のもとに進めてまいります。
ハンドボールがスポーツ文化として発展していくためには、現在ハンドボール協会が行っている事業の更なる充実が必要ですが、財源の確保がままならない現状において、事業の見直しや質の向上、それに加えて財源の効果的な活用がますます重要になっています。

1. 普及・指導に関する事業

・普及特別委員会
1. 少年チーム創設育成会議の設置
　・ブロック会議
　・少年チームの実態、創設の方法、指導者育成、ネットワークの構築
2. 公認指導者体系の整備
3. 普及施策の検討
　・U-15対策会議、U-15クラブ大会
　・運営マニュアル
　・異種目スポーツとの連繋事業

≪普及関係≫

【基本方針】
1. 生涯ハンドボール体系の確立
　①小学生を中心としたジュニアチームの育成
　・市町村協会でのスポーツ教室、スポーツクラブの育成
　・郡市町村ハンドボール協会の設立促進
　・チーム登録の徹底
　②小学校における教科体育ハンドボール授業の実践促進
　③小・中・高の教科体育における一貫指導体系の確立
　④マスターハンドボールの普及
　⑤車椅子ハンドボール等の支援
2. 中学生委員会関係
　①チーム登録の徹底
　②指導者養成、チーム育成事業の充実
3. ビーチハンドボールの普及
　全国大会の開催

【重点施策】
1. 小学校教科ハンドボールの普及と次期指導要領改訂対策
　・実践研究発表会の充実
　・研究指定校の実施
　・発育発達に応じた指導マニュアルの作成
2. 小学生チームの運営研究
　・小学生委員会を中心としてスポーツ教室、クラブチーム
　　ブロック・都道府県における小学生チームの組織化
　・ブロック大会の充実
3. 中学生チームの普及と活性化
　・指導者の育成
　・中学校体育連盟との連携
　・NTSとの連携
4. 生涯ハンドボール体系への基盤整備
　・少年スポーツ教室・クラブの充実
5. ビーチハンドボールの普及
　・講習会の開催、審判員の養成

≪指導関係≫

【基本方針】
1. 指導者の育成
　①指導組織の整備
　②都道府県における公認J級指導員及びスポーツ指導員の養成
　③コーチレフェリーシンポジウムの開催
　④大学におけるC級コーチ専門教科認定コースの設置について
2. 公認指導者の義務付けについて
3. 海外派遣による研修と情報収集
4. 技術・指導情報の広報
5. NTSとの連携

【重点施策】
1. 公認J級指導員養成、スポーツ指導員養成講習会の実施
　・U-12指導体系の確立
2. コーチシンポジウムの開催
3. 公認指導者組織の整備
　・各ブロック・都道府県における研修体系の確立
4. NTSとの連携

小学生事業
①小学生チームの増加
　・市町でのスポーツ教室、チームの結成
　・指導者の発掘、活動拠点の整備
　・活動マニュアルの作成
　・スポーツ少年団との連携
　・小学生委員会の活性化
　・小学生チームのピーアール（ドッジボール協会との連携）
②学校教育
　・授業実践研究会の充実
　・研究していこう
　・学校体育における必要性のアピール

中学生事業
①中学生チームの増加
　・市町でのスポーツ教室、チームの結成
　・中学校チームへの外部指導者の派遣
　・中体連との連携事業の充実
　・JOCとの連携強化、JOCブロック大会の充実

指導者育成
　・J級指導員養成の促進
　・公認指導員制度の充実（公認コーチ育成事業の推進）
　・日体協との連携による公認指導者体系の整備
　・NTSとの連携、指導者育成

2. 競技運営に関する事業

【基本方針】
1. 日本協会主催、共催大会及び国際大会の管理運営にあたる。
2. 大会運営、競技運営の組織化を具体化する。
3. 大会システムの充実を図る。
4. 登録システムの充実を図る。
5. 競技用具検定制度の推進及び整備を図る。

【重点施策】
1. 大会開催運営マニュアルの実施を推進する。
2. ジャパンオープントーナメント、年令別大会の組織化を図る。
3. 競技役員の資質向上を図るために、全国組織としての競技運営部を組織する。
4. 選手・チーム役員及び日本協会のデータ管理を統一させ、登録制度の充実を図る。
5. 競技用具検定制度の充実のために、新たな規格を検討する。また全ての大会で検定品を用いるよう使用の徹底を図る。

3. 国際に関する事業

【基本方針】
1. 世界大会（オリンピック、WC）出場に向け環境作り

2. アジアハンドボール連盟（AHF）のさらなる正常化
3. 東アジアハンドボール連盟への支援
4. 国際交流の体制構築とネットワーク化
5. 大陸予選会正常化のための IHF 働きかけ

【重点施策】
1. AHF・IHF の重要ポイントに役員を送り込む。
2. 東アジア地区の連携を密にする。
・東アジア諸国の競技会の実施及び支援
※日本リーグ男女優勝チームの派遣　於ソウル　4月14－16日
・東アジア諸国の指導委員会・レフェリーのレベルアップのための研修会実施及び支援
3. 海外拠点と国際交流のバックアップ
・派遣選手の送り出しのアシスト
・海外拠点国との調整
・海外駐在ハンドボール経験者の活用（情報収集）
・海外招聘国への調整
4. 国際－総務・強化との連繋

〈備考〉
1. 中国との交流
2.EHF － EAHF の交流

4. 競技規則（審判）に関する事業

【基本方針】
1. 審判員の資質の向上

日本のハンドボール技術の向上は、審判員の資質向上があって実現する。トップレフェリーを含め全体のレベルアップを図る。

さらに、コーチ及びプレーヤーとコミュニケーションを図ることにより、技術と反則の問題点を探り、高度の技術を目指す。

2. 競技規則運用の精度を高める

IHF からの競技規則運用に関する通達の頻度が多く、伝達の正確さが要求される。規則運用面での問題点の吸い上げと研究能力を高め、国内外での大会運営に支障のない状態を作る。

3. 審判員の評価活動

研修会・講習会の成果、また課題の把握、評価（審判技術）の継続

【重点施策】
1. 視聴覚教材の充実

VTR 等による視聴覚を駆使し、教育用 VTR 及びテスト用 VTR を作成し、審判員の資質向上の一助とする。

視聴覚器材の充実と、作成スタッフの充実を図る。

2. トップレフェリー研修会の充実

全国大会担当審判員、日本リーグ担当審判員及び技術指導者を一堂に集めた研修会を実施し、反則と技術の研究を深めるとともに、審判技術の向上を図る。

3. 継続的行事の実施

公認 A・B 級審判審査、審判員評価、JHA レフェリーコース、審判部合同会議等は、審判部運営上継続を避けることは出来ない。

5. 競技力向上（強化）に関する事業

【基本方針】
1. 北京オリンピック強化対策
2. 中・長期強化対策の推進
3. 代表チーム支援サポート事業の推進
4. NTS の推進
5. メディカルサポート

【重点施策】
1. 北京オリンピック出場に向けての強化
①北京強化プロジェクトの立ち上げ
②強化合宿（国内外）の実施
③国際試合（ナショナルマッチ）の実施
④海外派遣（プロリーグ及び留学）
⑤オリンピック予選に向けての準備
2. 中・長期強化プラン（2008 年以降）
①代表チームから U-16 までの一体化
②男女ジュニアチームの強化（国際試合の経験）
③一貫指導システム（NTS）の充実
④ジュニア（男女）世界選手権出場資格の獲得
⑤ U-23 世界選手権（男女）上位入賞
3. 代表チーム支援態勢の充実
①スケジュール調整
②分析サポート支援
・代表チームの技術・戦術分析
・アジア各国の情報収集
・世界のハンドボールの方向性
4. NTS（ナショナルトレーニングシステム）の充実
・選手・指導者の参加
・有望選手の発掘と育成
5. メディカルサポート
①代表チームのコンディショニング
・強化指定選手の体力測定とフィードバック
・合宿、遠征の帯同
②アンチドーピング
・アンチドーピングの教育とドーピング検査の実施

6. 機関誌発行に関する事業

【基本方針】

平成 16 年度は、雑誌媒体である機関誌と IT 媒体であるインターネットとの特性を踏まえ、内容を精選して掲載することとする。本年度も 10 回の発行とする。内容としてはインターネットの速報性に鑑み、大会速報は掲載せず、記録のみとする。また国際情勢、各種委員会、連盟からの情報伝達を充実させ、日本協会の動きを詳細に伝える。

【重点施策】
1. ナショナルチーム情報
2. 協会便り
3. 各種委員会便り
4. 各連盟便り
5. NTS 情報
6. IHF ニュース（国際ニュース）
7. スコアルーム
8. 企画記事
9. 機関誌のインターネット化に取り組む

7. 企画・広報に関する事業

≪企画≫

【基本方針】
1. 中・長期スケジュールに基づく企画・立案
2. 協賛募集活動の定着と拡大
3.『構造改革・プロジェクト 21』の検討・推進

【重点施策】
1. 北京オリンピックへ向けての具体策の集約
2. 協賛募集活動の具体化（マーケティング委員会の活動の推進）
3.『構造改革・プロジェクト 21』の具体的検討と実施
4. 協会運営の事業化を検討する

≪広報≫

【基本方針】
1. ハンドボール情報の発信の拡大（プレスリリース・HP 等の拡大）
2. メディアとの交流拡大
3. 協会内体制の確立
4. ナショナルチームの PR
5. インターネットの充実拡大
6.『がんばれハンドボール 10 万人会』の徹底

【重点施策】
1 － 1 発信媒体の拡大に伴う対応
イ）新聞　ロ）テレビ（地上波・BS・他チャンネル）　ハ）雑誌　ニ）HP
1 － 2　発信内容への対応
イ）ニュース　ロ）文化　ハ）バラエティ　ニ）経済　ホ）地域
2. メディアとの定期懇談会の実施
イ）東京記者クラブハンドボール分科会との懇談　ロ）NHK との懇談　ハ）意見交換の実施
3. 協会内組織の確立（担当者の複数化、役割の明確化）
4. ナショナルチームの露出
イ）テレビ　ロ）HP　ハ）新聞　ニ）雑誌
5. HP 情報の内容充実（機関誌委員会、インターネット委員会、スポーツイベント社との連携）（ナショナル情報）

≪インターネット≫

【基本方針】

日本協会より発信すべきハンドボールの情報（大会案内、試合結果、10万人会、各種案内等）を、インターネットを通じて、一般の愛好者へタイムリーに発信する。

・平成15年度は、協会独自のサーバーを立ち上げてから6年目となり、情報発信に対するユーザーの認知度等、前年に比較し効果が認められている反面、人材面の不足等から発信内容が固定化・縮小化される傾向にあり、新たな情報発信・円滑な運用のための体制作りを早急に検討する必要がある。

・平成16年度においては、インターネットを活用した情報提供の充実を図ると共に、昨年度と同様、ホームページ作成作業の一部を外部に委託し、作業の効率化、スピードアップを図る。

【重点施策】

①日本協会ホームページの充実
- 試合結果等の情報発信のスピードアップと内容の充実
- 新たな情報発信方法の検討と試行（受動的発信から能動的発信へ）
- 日本協会の広報活動としてのホームページ活用（広報部との連携）

②ホームページ等、円滑な運用のための体制づくり
- より良いシステムの検討、人材の補強等

③外注化による作業の効率化、情報発信のスピードアップ
- 本年度もホームページ作成作業の一部を外部に委託し、作業の効率化をはかる。

8. 財務・会計に関する事業

【基本方針】

日本ハンドボール協会の財政状況は数々の環境変化に影響され、大変厳しい現況下にある。協会の収入財源は大きく分けて、各種団体からの委託金・助成金と、登録金、さらに協賛各社からの協賛金、の3本柱から構成されている。これまでのように、特にアテネオリンピック特別強化委員会のような、大型収入財源の確保については、相当難しい状況であり、抜本的に財政の見直しを図って行かなければならない。

今年度は、特に収入財源範囲内での予算の立案に努め、思い切った支出の圧縮と効率的な運営を推進していく。

また、マーケティング委員会との連携を密にして、協会の収入財源の安定的確保を図るべく、新規協賛会社の開拓を推進していく。

【重点施策】

1. 収入財源絶囲内での支出予算の抜本的見直し
2. 新規協賛会社開拓のためのマーケティング委員会との共同活動
3. 安定的財源の確保による、強化・普及推進のための登録金の改定検討

9. 日本リーグに関する事業

【基本方針】

1. 日本リーグを継続・発展する。
   ①日本リーグ機構中期ビジョンを確立する。
   ②地域と共に発展する日本リーグを目指す。
   ③企業におけるチームの位置付けを明確にする。
   ④北京五輪に対する支援体制を確立する。
   ⑤普及活動への連携・支援体制を確立する。
   ⑥企業とのパートナーシップをはかる。

【重点施策】

1. 日本リーグ機構中期ビジョンの検討を行う。
2. 女子リーグの今後のあり方を検討する。
3. 観客動員対策に取組む。
4. メディア対策に取組む。（記者クラブ／NHK TVK テレビ／BS放送多チャンネルーチーム広報を徹底）
5. 東京地域での試合開催を充実させる。
6. 第3地域での試合開催（集中開催を行う）
7. 経費節減に取組む。（集中開催リーグの短期化）
8. 国際競技力アップに協力する。（NTS活動への協力支援・積極参加）
9. 新しいリーグの姿への挑戦
   ①日本リーグのシステム改革を検討する。
   ②チーム・ゼネラルマネジャーの育成
   ③他の日本リーグとの連繋をはかる。
   ④東アジアリーグを開催する。
10. 審判技術の向上に取組む。
11. チャレンジリーグ、オールスター戦の充実をはかる。

10. 総務に関する事業

【基本方針】

近年、日本ハンドボール協会の事業は社会情勢と、スポーツを取り巻く環境の変化にともない、多岐にわたる活動を余儀なくされている。当然、活動の執行部門である事務局には専門性・正確性・迅速性等が要求され、現行の事務局のマンパワーからして仕事量は増加の一途にある。この現況から今年度は、業務の効率化を積極的に推進し、事務局の多能化を推進していく。さらに戦力の強化を図るため人材の効果的再配置と投資を検討する。また、事務局経費の削減については継続的に取り組み、諸会議の円滑な運営と会議のあり方についても再考していく。

【重点施策】

1. 事務局の多能化
2. 事務局経費の継続的削減
3. 諸会議の再検討
4. 協会規程の修正と発行

11.「がんばれハンドボール10万人会」サポート会員に関する事業

【基本方針】

「がんばれハンドボール10万人会」サポート会の規約改正により、サポート会の拡大推進を図る。

【重点施策】

1. 都道府県協会サポート会を全国に組織化する。
2. 会員への情報サービスを強化する。
3. 日本代表選手、OB・OG・家族の入会を促進する。

12. マーケティングに関する事業

【基本方針】

アテネオリンピック予選（神戸）以降、環境変化に影響され、大変厳しい現状にある。マーケティング委員会としては北京オリンピックに向け、更に積極的な協賛活動の展開を図りながら、日本ハンドボール協会の財源の確保に新規協賛企業の開拓を推進していく。

【重点施策】

1. 従来の協賛企業の徹底したフォロー活動
2. 新規協賛企業の開拓のため、マーケティング委員会と日本協会理事、スタッフとの共同活動
3. 物品販売の大口販売に向けた展開活動

13. 女性委員会

【基本方針】

日本ハンドボール全体の普及・強化・発展のために「女性とハンドボール競技」という観点から、さまざまな課題を取り上げていきたい。ハンドボール協会が発足して66年、新しく設けられた委員会として、性差にこだわらず、または必要に応じて性差を配慮しながら、登録者一人一人を大切にし、ハンドボール競技の普及・強化・発展に寄与できる委員会活動を行っていきます。

【重点施策】

1. 女性の指導者数の把握
2. 都道府県協会内で女性担当委員の選出

平成15年度
トップレフェリー研修会神戸：参加報告



国際審判員　福島亮一（熊本県菊池南中学校）

平成15年度の、トップレフェリー研修会は、9月27日(土)、28日(日)アテネオリンピックのアジア予選と平行して神戸で行われました。

今回は、初日は男子の日本対中国戦を担当したスウェーデンレフェリー（ピーター・ハンソン、ピーター・オルソン）のレフェリングを観察。2日目には、スウェーデンレフェリーに直接参加してもらい、講習及び担当試合についてのディスカッションを実施しました。その後、IHF理事会のために来日していたスタインバッハ氏（国際ハンドボール連盟審判委員長）に、パッシブプレイについての講習をしていただきました。世界の一線で活躍されている両氏の講習ともあり、大変通訳として緊張しました。おそらく彼らの伝えたいことの全てを、参加者に対して伝えることができなかったと思い、今回は資料やVTRをもとに解説を加えてこの紙面を通して皆様にお伝えしたいと思います。

スウェーデンレフェリーの講習

テーマ「ゲームの運営〜いいレフェリーペアーであるために〜」

（1）レフェリーとしての3つの基本要素

①ルールについての知識
②ゼスチャーを適切に使いこなせること
③身体的なコンディションが整っていること

（2）レフェリーリングをむずかしくしているもの

①ステップの判定
・ステップの踏み方がまちまち　・4歩目でのシュートの見極め　・不規則なステップ　・押されてからのステップ
②攻撃側の反則
・チャージング　・先に位置を占めたのはどちらか
・ボールの有無
③サイドシュートの場面
・先に位置をしめたのは　・些細な押す、足をかけるプレイ
④段階的罰則の適用
・基準作り　・個々のプレイと罰則の必要性の有無
⑤ 着地シュート
・着地が早いか、シュートが早いか　・観察できる位置取り
⑥ディフェンスプレイヤーのゴールエリア侵入
・どこから入ったのか　・なぜ入ったのか
⑦ポストプレイヤー
・誰が誰に対して、何をなぜ行ったのか
・アクションとリアクション
⑧7mスローの見極め
・明らかな得点チャンスの見極め
・罰則の付加、必要であれば
⑨ベンチやコートの規律遵守
・レフェリングに影響を与える言動
・様々な感情表現と対応
⑩ゲーム理解
・チームの戦術組み立ての読みと理解　・戦術の多様化
⑪ゲーム運営
・コート上で起こりうる全ての問題に対して処理できる能力
⑫許容範囲をどの程度に保つか
・大会やゲームの質に応じた許容範囲を持ち合わせているか

（3）レフェリーの問題点（これからトップを目指していくレフェリーにとって）

①何が起こって、それがなぜ起こったのかが理解できずに、最終的な形のみで判定してしまっている。
②観衆やチームにとって、歓迎されない正しく・厳しい判定を下す勇気がない。
③双方に対して、常に平等に、公平に判定していくことができない。
④自信が持てない。また、それを裏付ける経験の場がすくない。

（4）よいレフェリーとして（トップレフェリーに対して）

①どんな試合でも、ゲームを読み管理する能力が備わっていること。
②人間性を高める。信頼感と謙虚な姿勢。
③ゲームや大会の運営を任されるだけの、理解と能力。

（5）問題点の解決のために

①ミスをなくしていくための努力。ミスをミスであると認める人間性。
②自分のスタイルの確立。ユーモアを表現できる役者の一面も必要。
③判定を正しく下せる位置取り工夫。
④あらゆる問題に対する解決法を持つ。

（6）いいゲームには、3つの要素がある

①ホームチーム



講習会風景



スウェーデンレフェリーと共に



講習するハンソン氏

②アウェイチーム
③そして、いいレフェリーペアーがいること
いいレフェリーのペアーとは、
・双方に対してフェアーであること
・ゲームのために尽くすという気持ちをそなえていること
・決して主役とならずに、運営すること。
・必要なボディーランゲージを使えること
・プレイヤー、チーム役員に対していい関係を保とうと努力すること

（7）自分のスタイルを確立しなさい、でも…

①他のレフェリーのスタイルを観察したり、自分のレフェリーを見てもらったりしながら、意見交換を密に行いなさい。
②デレゲーターたちに積極的に意見を求めなさい。いろんな視点から見た人たちからの意見に耳を傾けなさい。
③他人のまね（コピー）ではいけない。
コピーは単なるコピーに過ぎない。

スタインバッハ氏の講習会


講習するスタインバッハ氏

テーマ「パッシブプレイ」

（1）予告ゼスチャーができるまでの経緯

①レフェリー突然の判定が、プレイヤーやチーム役員にとって、二次的なアクションを誘発していることがあった。
・笛が鳴った瞬間にシュートしてしまう。
・いつまでも判定されないので、デフェンスプレイヤーが我慢できずにラフなプレーをおこしてしまう。
・チーム役員による、催促が判定につながったのではないかと疑問を抱かれる。
②得点の入る試合が、魅力あるスポーツである。
・どのようにしてスピードアップを促すか。
・メディアにとってもわかりやすいものは何か。
・遅延行為が戦術として使われるのは好ましくない。
③ＩＨＦは加盟国全てに対して、アンケートを実施し、指導委員会の意見を取り入れながら、予告ゼスチャーの開発にたどり着いた。予告ゼスチャーについては、回答したほとんどの国から賛成の返事を頂いた。

（2）予告ゼスチャーの適用に関して

①「これで、この攻撃は終了です。」と言った、親切なアドバイスである
・予告をあげるタイミングはチーム、プレイヤー、観衆が期待している時であること。また、両レフェリーで明確にしめすこと。
・どちらのレフェリーがあげてもよい。ただし、適切なタイミングであること。試合の局面、ゲームの質を考慮すること。
②予告合図をあげてから
・組み立て段階の保証。プレイヤーが予告に気づいてから、最後の攻撃に移るまでの組み立て期間は必ず保証する。
・途中のフリースロー、スローイン等での継続の場合は継続であることを明確に示しておく。
③最終的に笛を吹くタイミングを間違えてはならない
・ゴール方向へプレイヤーやボールが向かっているときには、決して笛を吹いてはならない。
・ボールがゴールから離れたり、ボールを持ったプレイヤーが立ち止まったタイミングが望ましい。
・決してベンチからの催促にあおられて間違えたタイミングで笛を吹くことのないように。

（3）遅延行為と予告合図の適用

ゲーム終盤や、自チームに対して退場者が出ているときには、遅延的な行為に対して注意を促さなければならない。
①得点をされたチームが、スローオフをするまでに時間がかかる、またはなかなか始めようとしない。
この場合は、すぐに予告合図をあげるのではなく、タイムアウトのあとスローオフを促し、スローオフの後必要であれば予告合図をあげる。
②再三のタイムアウトのあとの注意にもかかわらず、繰り返しスローを遅らせる行為については、罰則の適用も考えられる。
このような結末にならないような、事前の努力を忘れてはならない。

（4）その他

①プレイヤーの質や発達段階等によって、適用については若干の幅を利かせる必要がある。それをうまく使い分けるのもレフェリーの役割である。
②われわれも、現段階の適用が完全なものではないと思っている。これからあらゆる大会が行われていくが、改良を加えながら最善のものを作り出していきたい。そのためにはハンドボールを愛する仲間の助けが必要である。

終わりに

今回は、オリンピック予選とも重なり、世界のトップレフェリーのレフェリングを目の当たりにし、また、IHFのPRC委員長の生の声を聴くことができた点で、とても貴重な経験ができました。講習された内容については、すでに日本協会審判部が出されている通達とおなじであり、再確認ができたのではないかと思われます。

講習前に食事していた際、「どのくらいのレフェリーが参加しているのか」とのシュタインバッハ氏の質問にたいして、「100人は越えている」と答えたところ、「アイスランド協会のレフェリーの数よりも多い」と驚かれていました。アイスランドでは、国内のレフェリーの研修について、一同に介して行うことはなく、インターネット等でレフェリー自らが情報を集めていることが多いそうです。実践を多く積み、経験に裏づけられた独自の理論を持ってレフェリングすることが、大切とされているそうです。そう考えると、もしアイスランドでこのような研修会を実施すれば、かなりの質問が出たかもしれません。われわれ日本のレフェリーはみずから情報を求めようとする姿勢が足りないのかもしれないと、私自身反省の気持ちです。

私事、シュタインバッハ氏との対面は今回で３度目です。1997年の熊本の世界選手権で初対面し、2002年のIHFレフェリーコース（上海）、そして今回となります。このような再会の場を作っていただいた、斎藤審判部長をはじめ、関係の皆様に厚く感謝申し上げ、終わりの言葉とさせていただきます。

第6回アジア男子クラブ レフェリー

はじめに

私たちは、昨年の暮れ12月17日から28日の12日間、中東レバノン・ベイルートで開催された第6回アジア男子クラブリーグにレフェリーとして参加させて頂きました。10月にアジア連盟より指名を受け、大会へ臨む準備は十分に出来ていました。

12月15日、成田を出発、パリを経由（1泊）して、16日にベイルートに入りました。到着の夜、レフェリーミーティングが行われました。出席したレフェリーのほとんどが今までの大会で顔を合わせた仲間たちで、場の雰囲気は一気に和やかなものになり、気分的にも楽になりました。

ミーティングでは、「ここに参加したレフェリーは、アジアのトップであり自信を持って普段通りの笛を吹け。」というアドバイスがありました。また、レフェリー団が一丸となり、大会の成功を導けるようにと話がありました。ルールの確認では、パッシブプレー適用変更の確認があり周知徹底されました。

参加レフェリー、参加国と担当した試合

◆参加レフェリー

KUW, UAE, KSA, IRI, OMA, KAZ, LIB, JPN

◆参加国（　）内の数字は参加チーム数

KUW（2）、UAE（2）、KSA（2）BRN（2）、IRI（2）、QAT（2）、LIB（2）、SYR（1）の計15チーム

◆競技方法

参加15チームを4ブロックに分け、予選リーグを行ない上位2チームが本戦ラウンドへ、さらに上位チームと下位チームに分かれ、順位決定戦及び準決勝、決勝と行なわれました。試合数にして計45試合、これを限られた日程の中で消化することは、選手にとってもレフェリーにとってもかなりハードな日程となっていました。

◆担当したゲーム

私達ペアは決勝を含む合計7試合のゲームを担当しました。

① QAT×KSA ② KSA×BRN ③ LIB×UAE ④ BRN×UAE
⑤ BRN×KUW ⑥ QAT×UAE ⑦ QAT×QAT（決勝）

大会を通して

今大会はリーグ戦方式で試合数が多いという事もあり、私たちは7試合の試合を担当しました。予選リーグの21試合は全てのゲームが1点を争う僅差のゲームで、大変見応えのあるレベルの高い内容でした。興奮しやすい中東の選手であるが上、乱闘となるケースもあり、私たちが担当したゲームにおいても残り30秒で乱闘というゲームもあり、全てが緊迫したゲーム内容でした。私たちがゲームに臨むにあたりペアと心掛けたことは、どのような状況であっても「駄目なものは駄目！」という一貫した基準の徹底でした。重大なファールの見逃し、判定ミスが無いこと、場面によっては選手・ベンチの勢いに屈せず毅然とした態度で基準を示すこと。これが選手・ベンチ・観衆からも信頼を得ることだと思いました。毅然とした態度と一口に言っても実際には難しく、中東ではかなりの勇気がいることです。選手・ベンチは自分たちの都合の良いようにコンタクトを取りあるいは、アピールをしてきます。回りの言い分を聞いていれば当然私たちのペースに持ち込めず、温情を掛けてしまうと言うケースも出てきます。時としては冷たい態度を取る事も必要になってきます。



開会式風景

しかし、どんなにレフェリーが基準を徹底し、罰則を適用しても、選手たちのミスやストレスから勝手に腹を立て、粗暴なプレーからそれが引き金となって乱闘へと発展するケースも多々ありました。タイムアップの笛が鳴るまで何が起こるか分からないのが中東での試合です。事実、私達が担当した決勝戦では、同じ国のカタール同士のチームであるにもかかわらず、ラフプレーや挑発的な言動、態度とかなり双方がエキサイトする場面がありました。極めつけは、後半終了間際、オフェンスチームのポストプレーヤーがいきなり倒れ、大声でのたうち回った。（実際には何もされていないシュミレーションプレー）そのプレーに対し、ディフェンスプレーヤーが猛アピール、倒れているプレーヤーの回りで双方の選手が激しく罵り合い、かなり危険な状況となりました。まさに一触即発状態でした。お互いのプレーヤーを引き離し、冷却時間を与えるため、コート内にモップを入れたところ、ベンチ前で悲鳴がしました。振り返って見れば、このゲームにＴＤとしてオフィシャルに入っていた、後藤氏よりディフェンスチームのプレーヤーが相手チームの選手の顔面を殴打したとのことでベンチ前は騒然となり、同時に場内で待機していた警官隊がコート内に入り込んでくると言う凄まじい状況となり、一瞬何がなんだか分からないと言う一幕もありました。このプレーに対し、追放の判定が下されたことは言うまでもありません。

リーグにとして参加して

国際審判員　植村　彰
（千葉県立鎌ヶ谷高等学校）





レストランにて。右端が植村氏、後ろがペアの仲田氏

謝辞

今回、私たちはアジアの大会で初めて決勝戦を担当することが出来ました。それも中東の地で行なわれた大会であるだけに大きな経験と、同時に自信をつけることが出来ました。今までのレフェリー生活の中で最高の充足感を味わうことが出来ました。これも偏に日本協会斎藤審判部長はじめ、関係各位の皆様方のお陰と心より感謝しています。とくに、今回、ドクターとして参加された西山逸成氏、そして、ＴＤとして後藤登氏には、ホテル、会場と私たちにアドバイスを頂けた事が大変心強く、安定したレフェリングの手助けとなりました。この場をお借りして感謝申し上げます。また、私事ではありますが、この大会の参加にあたり、家庭の諸事情の中、家族の理解と支えがなければ私自身、この様な良き経験をすることは出来ませんでした。

多くの皆様方の支えに感謝し、これからもレフェリー活動を通し、日本ハンドボール界発展のために恩返しが出来るよう精進して参りたいと思います。本当にありがとうございました。

資料：担当ゲーム

①12月18日　予選リーグ
Al-Ahly(QAT)×Al-Ahly(KSA)

前半より段階的に罰則の運用が上手くとれ、特に問題となることはなかった。後半、細かなプレーを難しく判定し、選手にストレスを溜めるような笛となり途中、険悪な雰囲気となったが、終盤に何とか立て直すことが出来た。

②12月20日　予選リーグ
Al-Ahly(KSA)×Al-Ahly(BRN)

前半後半と問題なくスムーズに展開され無事に終るかと思いきや、最後のノータイムフリースローから再会したところ、ディフェンスプレーヤーが激しく後から突き飛ばしたことに対して、オフェンスプレーヤーと乱闘となる。

③12月22日　予選リーグ
Al-Ahly(LIB)×Al-Jazira(UAE)

特に問題となる事象は発生しなかった。

④12月23日　本戦ラウンド
Barber(BRN)［Ａリーグ１位］×Al-Nasa(UAE)［Ｂリーグ２位］

エキサイトする場面が多く、選手・ベンチの管理が十分でない反省が出てきた。

予選リーグ以上にハードな戦いとなってきた。

⑤12月24日　本戦ラウンド
Al-ahly(BRN)［Ｄリーグ１位］×Al-Sulibikhat(KUW)［Ｃリーグ１位］

前半中盤あたりから、目に見えない所でのラフプレーがあり、選手同士のいがみ合いが絶えなくなってしまった。とくに、クウエートの選手は何をしでかすか分からないといった、気の抜けない状況であった。

⑥12月27日　準決勝（延長戦となる）
Al-Ahly(QAT)×Al-jazira(UAE)

今大会の中で一番内容の良かったゲームである。前半より一貫した基準で段階罰もしっかり取れた。選手・ベンチも試合に集中しているといった見応えある内容であった。

⑦12月28日　決勝
Al-Ahly(QAT)×Al-Sadd(QAT)

同じカタール同士の試合であるのに何故この様な内容になってしまうのかと肩を落とす。笛の吹き方を変えれば防ぐことが出来たかどうか、悩むところである。詳細は本文を参照下さい。

広島メイプルレッズ　2003年日本スポーツ賞 受章



2003年に日本で最も活躍した選手、チームを表彰する第53回日本スポーツ賞（讀賣新聞社制定）の競技団体別最優秀チームに広島メイプルレッズが選出された。

広島メイプルレッズは2003年に全日本総合選手権で5年連続6回目の優勝（前身のイズミ時代を含む）を果たしたのを初めとして、日本リーグ5連覇、全日本実業団3連覇、国民体育大会初優勝など年間四冠を達成した。

1994年、イズミ女子ハンドボール部として発足以来、10年間で20の全国タイトルを獲得している。

2001年には企業チームからクラブチームとして、再スタートを切り、従来とは違い練習時間など厳しい環境の中であったが、行政、企業、地域の温かい支援を受け、市民に愛されるチームとして存続している。

2002年9月には、NPO法人として認可され、地域のスポーツ教室や講習会等に積極的に参加している。

これらの活動に対しては、全国的にも高い評価を受けており、同様のクラブを目指すスポーツ団体からも注目されている。将来的にはハンドボールだけでなく、他のスポーツも加えた総合型スポーツクラブを目指している。

特定非営利活動法人　広島女子スポーツクラブ
チーム名　広島メイプルレッズ

理事長	山下　泉	選　手	高森　妙子	選　手	吉兼　美紀
GM	高西　宏昌		土屋　友美		浅井　友可里
部長	板東　博明		木村　妙子		杉本　絵美
副部長	山本　一		青戸　あかね		石山　亜希子
総監督	平田　幸男		大前　典子		前山　真由実
監督兼選手	林　五卿		河本　千寿子		金　鎭順
コーチ兼選手	呉　成玉		岩本　美穂	マネージャー	長木　由佳
			坪井　美帆	トレーナー	榎並　彩子

神戸事務局便り 最終便　2004年1月31日

アテネオリンピックハンドボール競技アジア予選兵庫・神戸大会を終えて

アジア予選神戸事務局次長　**丸茂康子**（兵庫県ハンドボール協会常任理事）

大変残念な結果で幕を閉じたオリンピック予選も1月31日、神戸グリーンヒルホテルにおいて解散式を終え、全ての任務終了、看板をはずすことができました。

長期にわたる大会も対日本戦に関しましては、全国各地から沢山の応援をいただき、非常に活気ある毎日だったと感謝いたしております。

全国のハンドボール関係の皆様、又、ご協力賜りました関係企業の皆様、本当にありがとうございました。紙面をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。

この大会を準備開催するにあたり、最初はどうなることかと不安の連日でしたが、事務局ができ、担当者も常駐出来るようになり、私どもとしましては公務のあとの仕事と位置づけできるようになり、又、日本協会から田中さんの派遣もいただき、一気に事が進み準備の遅れも取り返しできたような連日でした。

しかしながら、いろいろと準備不備な面も多く、多くの方々にご迷惑をおかけいたしたことと申し訳なく思っております。

私どももいろいろな事を勉強させていただくことができました。兵庫県協会も様々な大会を開催させていただきましたが、若い役員の方達で今までの経験を生かした大会運営が今後出来るのではないかと確信いたしております。2006年には兵庫国体が県下一円で開催されます。自治体運営ではありますが、その担い手となって動いてくれることでしょう。期待しております。

本日、改めて(財)日本協会より御礼のご挨拶をいただきました。ボランテイアの方、又、一役員として協力いただいた県内市内役員方、本当にお世話になりました。ご苦労様でした。そのご報告とともに、アテネゆきのチケットは無理でしたが、北京は近くなったオリンピック、神戸事務局最後の便りといたします。

大会を盛会にするために本当に後協力いただきました全国の皆様ありがとうございました。



がんばれハンドボール10万人会

サポート会特別会員

大阪ハンドボール協会顧問
大阪市ハンドボール連盟会長

山田　稔

第10回西日本小学生ハンドボール交流大会「ピーチカップ」にご参加頂きありがとうございました。来年は平成17年1月22～23日に開催予定です。皆様ぜひ総社市きびじアリーナへお越し下さい。

総社市ハンドボール協会
理事長　村木理英

〒719-1156
岡山県総社市門田507

元松山商科大学教授
元日本ハンドボール協会理事
元全国高等学校ハンドボール部常任委員
元四国ハンドボール協会理事長
元愛媛県ハンドボール協会理事長
平成十四年勲四等瑞宝章受章

越智　武
紀子

松山市石手3丁目6番20号
☎089-977-1648

㈶神奈川県体育協会副会長
神奈川県ハンドボール協会会長

斎藤達也

〒220-0041
横浜市西区戸部本町四-八
☎045-324-1221

北海道ハンドボール協会副理事長
日本大学ハンドボール部OB会会長

山辺文彰

北海道釧路市春採五-十五-一

塩川安賢

〒143-0024
大田区中央三-十三-十一

私たちはハンドボール競技を応援しています

時流に乗り遅れまい

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw（フリースロー）

アテネ五輪が近づき、各競技の代表が次々と決まっている。そうしたニュースに接するたびに神戸で逃がした悔しさ、空しさが思い起こされる。なんとしても次回の北京大会には胸を張って代表を送り出したいものである。

そのためには少しの停滞も許されないは言うまでもない。

そうした中で男子の松井全日本が世界選手権出場を決めたのは、ひさびさの朗報である。これをきっかけにして世界との距離を少しでも縮めていきたいものである。

近年、日本のスポーツを取り巻く環境は大きく変わってきている。とりわけ企業スポーツの環境はバブル崩壊とともに厳しく、いろいろな競技で休・廃部が相次いでいるのは承知の通りである。今後これまでのような「企業におんぶに抱っこ」型での継続は、いっそう厳しい状況におかれていくのではなかろうか。

そこで模索されているのが「クラブ化」である。ハンドボール界を見渡してみても、日本リーグ女子では広島メイプルレッズがいち早く踏み切ったほか、HC名古屋、男子のHC東京がクラブ化した。

こうした動きに関して最も重要なことは、どのように地域と手を結ぶかである。プロサッカーJリーグは誕生当初から「地域貢献」を理念として掲げている。地域と手を携えてサッカーだけでなく、いろいろなスポーツを地域とともに育て、普及を図り、活性化へつなげようというものである。

ハンドボール界としてもこうした動きを積極的に推進して、活性化につないでいきたいものである。地域の人たちに愛されなければ存在しないことは当然である。スポーツを通しての町おこしに貢献してこそ、ハンドボールという競技が多くのファンに愛され、ファンを魅了するだろうし、その拡大にもつながっていくのではないだろうか。

それによって多くのファンが日本リーグをはじめ、各大会へ足を運んでくれるようになるだろう。観客の声援が選手の背中を押すことになるだろう。そして一瞬たりとも気が抜けないプレーを生み出し、全体の底上げにつながり、トップのレベルアップをうながすことになるに違いない。

さらには波及効果で世界選手権やオリンピックの常時出場へと結びついていくはずである。そうなることは今のハンドボール界には夢物語かもしれないが、手をこまねいていては何も生れない。夢に向かって少しでも前進することが重要なのだ。そして究極はプロリーグ誕生へ進むかも…。努力を惜しむまい。



連載41

NTS2003報告
4年目のリアクション

NTSコーディネーター　栗山　雅倫

前号までに、NTS2003センタートレーニング終了のお知らせを、参加者の方々のご紹介とともにさせて頂きました。今回は、4年目のセンタートレーニングにて、皆様方にご回答いただいたアンケート結果に基づいて、現状把握と今後の展望に関する見解を提示させていただきます。

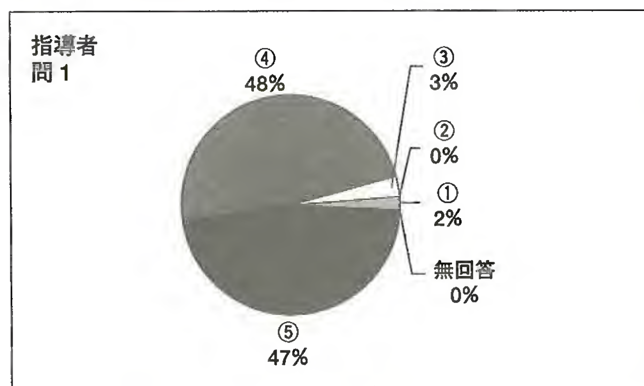
なお、NTS開始以来、一方的なシステムにならないよう、アンケートでの実施形態を確認させて頂いておりますが、昨年からは、より本音が反映されるよう、無記名でのアンケートを実施させていただいております。

【主なアンケート結果】

引率指導者

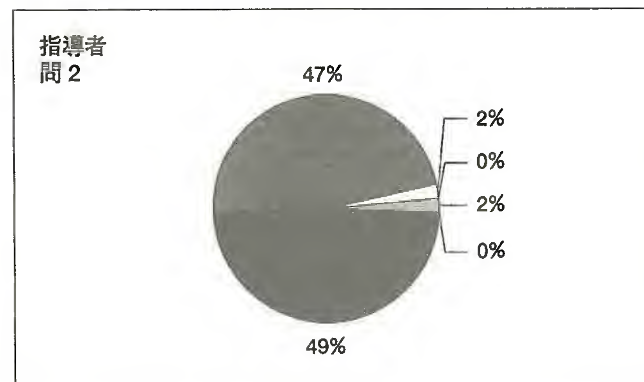
問1　今回は有意義でしたか？

⑤非常に有意義　⇔　①まったく有意義でない



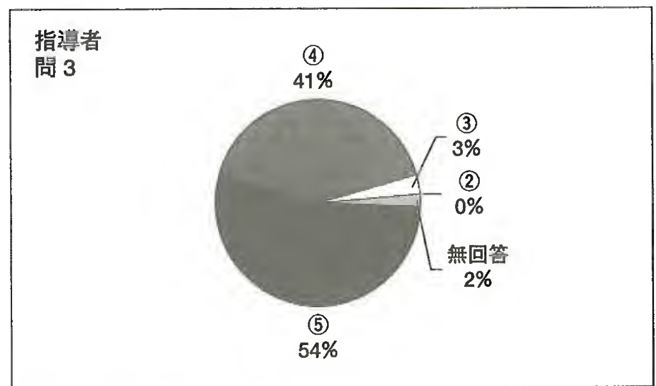
問2　トレーニング内容は

⑤大変役に立った　⇔　①まったく役に立たない



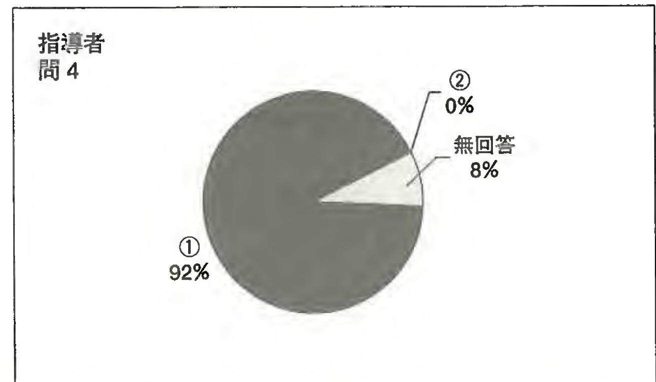
問3　インストラクターの指導は？

⑤大変良い　⇔　①まったく良くない



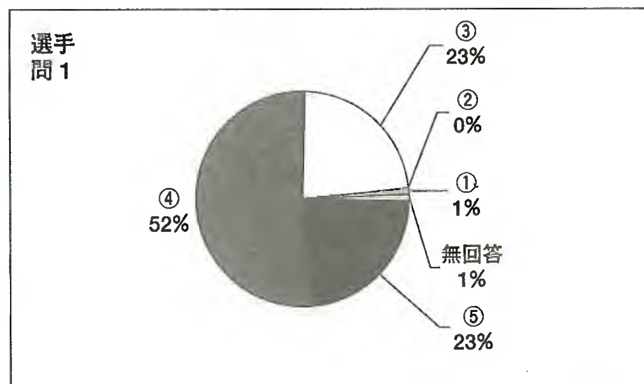
問4　今後もNTSの継続を希望しますか

① 希望する　②希望しない

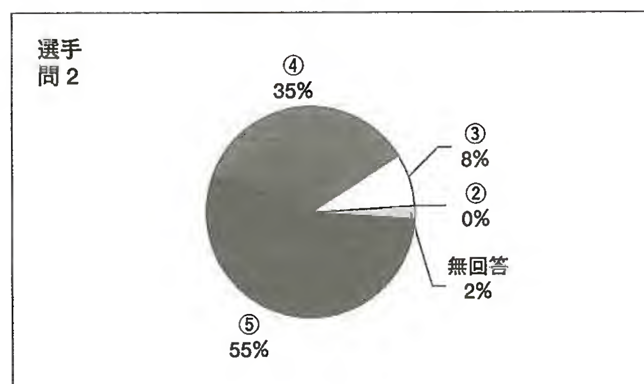


選手

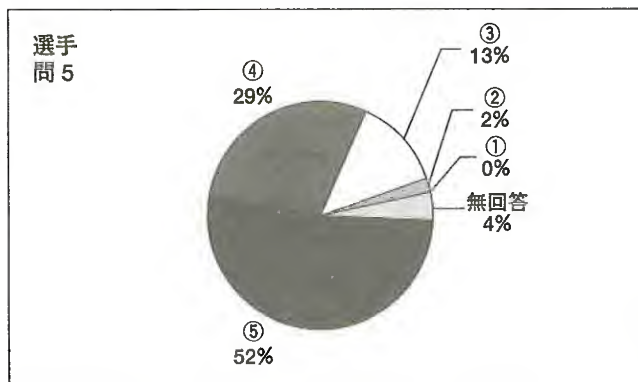
問 1　トレーニングのレベルは？
⑤非常に高い　⇔　①非常に低い



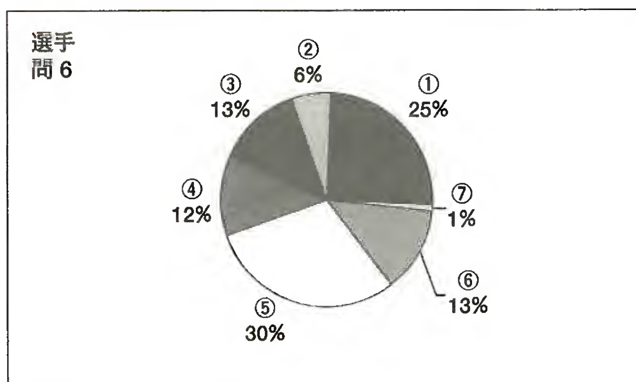
問 2　インストラクターの指導は？



問 5　このような企画に、今後も参加したいか？
⑤是非　⇔　①まったく思わない



問 6　将来の展望は？
⑦その他、⑥ハンドボールの指導者になりたい、⑤もっとうまくなりたい、④全国大会で優勝する、③全日本選手になる、②プロの選手になる、①オリンピックにでる



アンケート結果より、全体的に皆様ポジティブなご意見をお持ちのようです。システムを立ち上げ、内容の洗練を目指した成果が徐々に表れて来たのかもしれません。今回、センタートレーニングに直接ご参加いただいた方の意見からは、そのような傾向が見られます。
また、もっとも喜ばしいことは、参加選手の将来の夢が、想像よりも、非常に高いところにあることです。国際舞台を志すことを現実的に“夢”とする選手が、5割に近いことは、大変明るい傾向ではないでしょうか。
一方、隠れた人材の発掘という点では、課題を残したことも事実です。日本が目指すハンドボールが、「とにかく形態を活かす」ということが難しくとも、現状ある大きな形態的較差を、少しでもカバーする必要性も否めません。そのような意味からは、発掘選考規準の見直しに関して、各方面からご意見が寄せられています。これは鋭意改善する努力をしてまいりたい所存です。
今後、助成金の変化などから、様々な実施形態の変更、工夫が迫られることは必死ですが、国際競技力の向上を目指し、球界全体で充実したシステムに育てていければと、切に希望する次第です。

集中連載④ スペイン研修報告

日本ハンドボールリーグGM担当
田中　茂

スペインナショナルトレーニングシステム紹介

スペインカタルーニャ州ナショナルスポーツトレーニングセンター



ナショナルトレーニングセンターはバルセロナ市内から20kmの郊外にあり、施設は全ての競技に対応できる設備が整い、施設内には宿泊所、小学校、中学校、高校までの教育施設（クラス）もあり、選手は競技中心に生活ができるようになっている。

選手の多くはナショナルレベルであり、素質のあるジュニア選手です。最高の施設と指導者のもと、科学的トレーニング、栄養士による食事の管理、メディカル（医療施設・選手へのマッサージ等も含め）、心理学者によるカウンセリング等を受けることにより、トップアスリートとしての精神・技術を学んでいくシステム（育成方法）となっている。



陸上競技場



宿泊施設

選手は自由に様々な施設を利用することができ、スポーツの技術だけではなく精神的な悩みや、成長、発育によって生じる悩みなどを含め、様々なカウンセリングが行われている。

各専門の指導者（競技指導者、ドクター、心理カウンセラー、トレーナー、栄養士など）による、分業制のなかで選手にあった指導法が話し合われ、選手の能力を最大限に発揮でき



学校教室



体力測定



メディカル・マッサージ

るようなシステムになっている。

ジュニアクラスの多くの選手は親元を離れ、国からの奨学金、または、各競技団体からの奨学金などによりこの施設内で生活を行っている。

様々な競技者（トップアスリートからジュニアクラスまで）が一同に生活し、トレーニングすることにより、競技者同士の横のつながりや情報交換などがスムーズになされる。また、オリンピックや世界選手権出場経験選手も多くこの施設を利用しているため、ジュニアからトップまでの共同生活の中で縦のつながりも生まれ、若い選手のモチベーションの維持、技術向上に非常によい環境である。

また、トップアスリートや指導者による講習会や各種大会（オリンピック・世界選手権）での体験談などの発表が頻繁に行われている。トップアスリートを近い位置で見ることにより、多くのものを学ぶ機会が与えられた施設である。

このような施設がスペイン国内に６ヵ所あり、様々な人がトップアスリートに関わりを持ち、選手を発掘、育成と一貫して行っている。

日本国内にもナショナルトレーニングセンターが各所にできるようになり、専門的な指導者による選手育成ができる環境を考えていかなければならないのではないかと、現地を視察して感じた。



心肺機能測定



研究発表会

短期集中連載：沖縄県のハンドボール③

沖縄県の小学生ハンドボールの実態



沖縄県ハンドボール協会　三輪一義（琉球大学教育学部）

小学生ハンドボールの現状

沖縄の小学生ハンドボールは、学校の部活動として行われています。情熱のある小学校教員が自分の新しい赴任先でハンドボール部を立ち上げ、異動後にはその活動を父母が受け継いでいく。現在および過去においてハンドボール部が存在した小学校は20校を超えます。もちろんすべての学校において教員の異動後も活動が継続されていくとは限りませんが、平成15年には13の小学校でハンドボール部が日々の活動を行っています。それぞれの学校には男子部・女子部があり、学年も1年生から6年生まで、大所帯のところで80人を越える部員を抱えている学校もあります。平成15年の沖縄県小学生ハンドボーラーの総人数は512人、各学校には学年ごとにA・B・C・Dチームなどが存在しますので、チーム総数は60チームを超えます。

沖縄の小学生ハンドボールのもうひとつの特徴は、地域の父母が外部コーチとして活動の中心を担っていることにあります。13校の内2校は父母が学校側に働きかけてハンドボール部の立ち上げに成功したという事例もあります。また、どこのハンドボール部にも『父母会』と呼ばれる保護者会が必ず存在し、日々の練習だけでなく運営面においても子供達に対し強力なバックアップを行うシステムが整っています。ややもすれば1人の指導者だけで、日々の指導や資金調達も含めた部活動運営面、子供達への諸連絡から試合会場への送り迎えまで、丸抱えで四苦八苦されていることがある現在の学校指導現場において、このシステムは大変有効な方法であり、これからの学校スポーツ部活動を考える上でも非常に示唆に富む取り組み方法ではないかと思います。

小学生ハンドボールの歴史

沖縄県における小学生ハンドボールの取り組みは、沖縄国体を4年後に控えた昭和58年に溯ります。当時那覇工業高教諭であった東恩納盛英氏（現・那覇高教諭）が第2回の九州小学生大会が行われるのを聞きつけ、自校自動車科にゴールポストを作成してもらい、ある1つの小学校にゴールを設置したのが最初の一歩でした。

この年、第1回沖縄県小学生大会が3チームの参加で開催されました。4年後の海邦国体後には、東恩納氏が成年男子の会場であった浦添市に働きかけ、使用したゴールを市内の小学校に寄贈してもらい、チーム数が一挙に増えたのが現在の『浦添ハンドボール』の始まりとなっています。

九州大会初参加から2年後の昭和60年には九州初制覇を成し遂げ、平成元年の宮城小学校の全国初優勝を皮切りに昨年まで、男女合わせて11回の全国優勝を数えるに至っています。

県内大会は年5回

小学生における県内大会は年間で5回行われています。6月の全国大会予選、8月上旬の地元新聞社主催の県大会、8月終わりの浦添市ハンドボール祭り、11月の九州大会予選、3月の6年生卒業記念大会の5つが県レベルの大会として位置付けられています。それぞれの大会には、高学年を中心としたAパート、中学年や高学年初心者を中心としたBパート、低学年やハンドボールを始めて間もない子供達を中心としたCパートを設けて、すべての部員が試合に出場できる機会を与えています。「過去、日本のスポーツ指導法はどちらかといえばゲームを楽しむことより、技術を高めることが重要課題とされてきた。ある程度の技術の完成度を持って、試合に臨む方式が主であった」「ゲームを通して社会の類似体験をし、実際の緊張感の中で状況判断をしていかざるを得ないゲームの経験は、日々の練習からは得られない」とある論文で述べられていますが、沖縄では技術の完成度がなくても試合はその能力に合わせて楽しめるものであるとの考えから、Cチーム・Dチームとしてすべての部員が大会に参加します。なるべく多くの試合を経験してもらうために、各パートごとに予選リーグ・決勝トーナメント制を基本としています。試合日程の関係上、最初からトーナメント戦にならざるを得ないパートであっても、敗者交流戦を必ず実施し、特にCパートの子供達の試合数増加に取り組んでいます。そのため大会は2面2日間の日程で、1日片面19試合、計60試合というのが当たり前になっています。それでも各チームからの要望には応えられず、来年度からは4面2日間、計90試合が計画されています。

地域の保護者を巻き込んだ取り組み

沖縄において、ハンドボールを普及していく取り組みのターゲットは、「子供達」ではなく「保護者」です。子供達を集めてハンドボールを教えていくのではなく、その保護者に対してハンドボールを知ってもらう。地域のスポーツ指導者としてハンドボールに携わってもらえるように導いていくよう努

力しています。

例えば、保護者対象の審判講習会や大学公開講座の実施です。自分の子供の入部をきっかけにハンドボールを観戦するようになり、保護者会の一員として普段の練習にも顔を出すようになって、全くハンドボールを知らなかった保護者でも、子供の成長を通してハンドボールの魅力を感じていくようになります。その後押しとして、保護者のための審判講習会を開催しルール面からハンドボールを知ってもらう、保護者対象の公開講座を通して技術面・指導面からハンドボールに触れてもらうこと等に取り組んでいます。実際に、大会におけるB・Cパートではチーム帯同レフェリーとして、審判が割り当てられ、大会運営にも協力してもらっています。公認審判資格やJ級指導者資格などの取得まではもう少し時間がかかりそうですが、教員以外の指導者の充実こそ沖縄のハンドボールの発展には欠かせぬことだと考えています。

学生時代やこれまでの経験から、ハンドボールの専門家として日々の指導に当たっておられる保護者の方々には、強化部が主導になってNTSトレーニングの内容を講習会等で伝達しています。東江正作・沖縄県強化委員長（U-16女子日本代表監督）や黒島宣昭氏（興南高監督）ら強化委員が講師として直接指導に当たっています。

また、沖縄県独自に、強化・普及を兼ねた指導DVDを作成し、各チーム指導者に配布することによって、基礎部分の練習法の統一や新入部員に対する動機付けに役立ててもらう取り組みも行っています。

ハンドボール特区《浦添市》

先月号でもお伝えしましたように、浦添市立の小学校11校中9校、中学校5校全校にハンドボール部が存在します。この環境は、小学校・中学校の日々の練習における連携（合同練習）や、小中一貫指導の確立に大きく貢献しています（先月号までを参照）。また、特定地域に複数のチームが存在するために、練習試合の頻繁さにも繋がっています。ある小学校が練習試合のために浦添市民体育館を借用したと聞くと、どこからともなく情報が流れ、あっという間に数校が集まり、ちょっとした練習試合大会になってしまうことがよくあるそうです。



沖縄ハンドボールを支える小学生指導者

新たな流れ

これまでは、沖縄の小学生ハンドボールといえば「浦添市」でしたが、追いつけ追い越せとばかりに、他の地域で新しく大きな流れが現れ始めています。

沖縄県中部地区にある兼原小学校が3年前の県大会で優勝し、その子供達が進んだ具志川中学校が今年1月の中学新人大会において優勝を果たしました。18年ぶりに浦添地区以外の中学校が県大会を制したことになります。小学生からのハンドボールの取り組みが重要であることと、その後の「受け渡し」が順調に行われたことの現れでもあります。地元小・中学校の指導者の方々の頑張りがあってこそだと思います。

そして、まったく新しいハンドボール部創設の流れが、同じ中部地区で始まりました。従来の沖縄の小学生ハンドボールは小学校を中心に発足してきましたが、地域の一般クラブチーム「コザクラブ」の構成員の中から中学校・高校の教員が中心となり、自分の子供を中心に、地域の子供達に呼びかけをして、3つの小学校からなる地域小学生ハンドボールクラブ「コザクラブJr.」が結成されて活動を始めました。加えて、距離は少し離れていますが、同じ地区の他の小学校2校のハンドボール部や地元中学校と連携して、第1回中頭地区小学生ハンドボール大会がローカル大会として開催されました。チームがお互いに競い合ってそれぞれのレベルを向上していくだけでなく、メッカ・浦添市に負けじと他の地域が対抗意識を燃やす。この構図も沖縄の特徴であり、小学生におけるこの新たな流れが、新しい沖縄ハンドボールを創り上げていくことになると思います。

次回（最終回）は、沖縄ハンドボールの課題とその将来について、お話しさせて頂きます。

イーハトーヴ花巻にハンドボールの輪を広げよう！　パート2

花巻市ハンドボール協会の活動



花巻市ハンドボール協会事務局　中島昭博（花巻北高等学校）

3月号に続いて花巻市ハンドボール協会の活動を紹介いたします。協会には多くの人材がおり、活動も小学生、中学生、高校生、大学生、一般と多岐に渡っております。

地域を巻き込んだ多種多様な活動により、さらにハンドボールの輪を拡大していきたいと思います。

花巻市ハンドボール協会組織

役職	氏名	勤務先と役職
会長	小田島　實	㈱小田島会長、県協会顧問
副会長	小友　正人 佐藤　良介 伊藤　光則	久慈高校長、県協会副会長、県高体連専門部長 東華商会社長、県協会副会長、市体協評議員、花巻北高校評議員 花巻市立南城中学校教諭、花巻地区中体連理事長
顧問	太田代誠二 山口　紀士	花巻市代表監査委員、元市協会副会長 花巻市助役、元市協会理事長
参与	高橋　正儀	岩手県北青少年の家所長、県協会参与
理事長	谷川　富男	花巻地区広域清掃センター職員、花巻クラブ総監督 東北社会人ハンドボール連盟理事長、花巻南高校女子コーチ
副理事長	谷藤　玲二 佐藤　睦朗	花巻市立宮野目中学校教諭、市中体連理事 盛岡四高教諭、県高体連専門部委員長、県協会常務理事、市体協理事
事務局長 事務局総務	中島　昭博 川村　俊彦	花巻北高校教諭,県高体連専門部副委員長兼審判長、県協会常務理事 理事花巻北高校教諭,県高体連専門部
理事 担当 氏名 （勤務先・役職名）	競技：森田亮二·鎌田雅広・中野達也、総務：及川正博・谷藤節雄・高橋宏明	
	審判：多田和生・小田中達夫・藤尾泰伸、渉外：舟山晋・吉田清美・柏葉公平	
	広報：菅谷誠弥、菅原富美子・鈴木亜希子・佐々木和恵・佐々木圭子・滝田美佳	
	社会人リーグ：藤原啓史・千田文克、県南大会：市丸成彦・砂子田政男・筑後泰司	
	小学校普及：菅原秀行・根子裕司·鎌田広国・小田島定孝	
	中学校普及：成田幸子・岩角聖孝・千田訓子	
	チーム代表者：下記小・中・高・大・一般の各チーム責任者	
監事	菊池　完之 狩野　敦史	日本ホームスパン社長 松園歯科クリニック院長

市内のチーム関係者とH15年度の実績

＊当該校の教職員

チーム名	顧問（コーチ、世話人）	H15年度の実績
花巻クラブJr	菅原秀行（根子裕司　柏葉公平）	創設7年目、県2位
花巻中　男	＊千田訓子（＊佐藤清彦　藤原啓史　柏葉公平）	県中総体初優勝
花巻北中　男	＊成田幸子（舟山 晋）	県1年生大会優勝
花巻北高　男女	＊川村俊彦 ＊中島昭博　＊阿部圭次	県南男優勝、県ベスト8
花巻南高　男女	＊阿部　伸（谷川富男　伊藤正勝）	県南女優勝、県ベスト16
花巻農業高男女	＊市丸成彦　＊砂子田政男　＊筑後泰司	県ベスト16
富士大学　男	＊樋下孔士　＊鳥居昇	東北学生リーグ2部昇格
花巻クラブ　男	及川正博　高橋宏明	県ベスト4
花巻クラブ　女	森田亮二	県ベスト8
ガンバ花クラ男	谷川富男	県リーグ1部
花巻送球会　男	平賀香之	県リーグ2部
岩手教員ｸﾗﾌﾞ男	田村登　斎藤崇　高橋昌平	東北総合選手権優勝

近年の普及状況

①小学校への取り組み

・H9～花巻クラブJr．設立。以来、チェリーカップ・大沼杯等の県外大会に参加

・H14～全国小学校研究大会 H13～岩手県小学校研究集会に参加

・H14～花巻市協会主管の春・秋開催する県南大会に小学校部門を設ける。

・H14～市教委主催小学校ハンドボール教室を年5回ずつ開催

・H15～市内小中学校にゴール＆ボール配置…ハンドボールキャラバン【前号参照】

・H16～第1回県小学校スポーツ少年団交流大会【後述参照】
市体協主催による小学校ハンドボール教室（5回を年3回開催予定）

②県社会人リーグの事務局担当

・H6～過去に盛岡の外コートで行っていたものを花巻市総合体育館で開催。

現在は、1部8チーム、2部8チーム、3部10チームの3部制（男子のみ）

③ビーチハンドへの取り組み

・H14～体育の日「はなまきスポレクフェスタ」

ニュースポーツ部門『ビーチハンドルールによるグラス（芝生）ハンドボール体験コーナー』を開催（雨天の場合：ハンドボールゴールを 24 分割してストラックアウトゲーム＆７ｍｔコンテスト）

・H14：第 4 回全国兼第 1 回東北ビーチハンド大会 in 秋田に花巻北高 1･2 年男子、花巻北 & 南 & 農高合同男子、花巻クラブ男女参加

・H14：第 1 回青森県ビーチハンド大会 in 野辺地に花巻クラブ男女６名参加

・H15：第 2 回東北ビーチハンド大会 in 野辺地に花巻南・農高男女、花巻クラブ男女参加
花巻南高女子優勝！花巻クラブ男子準優勝！

④マスターズ大会への取り組み

・H13：第 9 回全日本マスターズ大会 in 愛知に参加、セニョール部門で優勝！

・H14：第 1 回東北マスターズ大会 in 花巻開催

・H15：第 2 回東北マスターズ大会 in 七戸に参加

・H15：第 11 回全日本マスターズ大会 in 宮崎
谷藤県協会理事長、谷川市協会理事長、中島事務局長の３名参加

・H16：第 12 回全日本マスターズ大会 in 花巻開催 【後述参照】

H16 年〜花巻ハンドボール事情

①地域シンボルスポーツ推進事業の特集記事が岩手日日新聞元旦号に掲載される！

② 3/7 県小学校スポーツ少年団交流大会

…県内３つの少年団にハンドボールキャラバンの小学校チームも加え、さらに親とスタッフ同士のゲームも導入！

③地域シンボルスポーツ推進事業２年目の企画立案中！

…花巻ケーブルテレビが年間通じて取材！　２年目の皮切りとして、4 /11 (日)大崎電気の岩本・中川・宮崎選手たちと交流イベントを予定！　また、大崎電気の岩本選手や辻選手らが「すぽると」他、テレビ出演した 3：3 で行うスカイプレーありのドッジボールの進化版格闘シューティング・ボールゲーム「Quadrate （クアドレイト）」とのジョイント開催及びテレビ取材検討中！

④富士大学スポーツセンターにタラフレックスコート設置

…大学側が日本協会と折衝し、ホンダ（三重）から輸送して設置。練習コートのほかに各種大会やイベントに活用できる。また、今春、強力新人の加入により、富士大学男子ハンドボール部発足２年目の飛躍が期待される！

⑤ 7/23 〜 25 全日本マスターズ大会 in 花巻

…全国から生涯現役ハンドボーラーが集い、従来どおり順位決定型・交流型でのゲームのほかに、初めて 11 人制ゲームが行われる。11 人制の会場は、岩手ハンドボール発祥の地において、岩手ハンドボールの生みの親である箱崎敬吉名誉会長のスローオフによって開始される予定。また、往年の名選手たちとのちびっこ交流タイムなど、楽しい企画を検討中！　チーム及び個人の多数の参加をお待ちしています！
〆切 5/14

⑥ 9/25 日本リーグ花巻大会

…「大崎 vs ホンダ、湧永 vs ホンダ熊本の２試合」を、県高校１年生大会とドッキング開催。合間のちびっこ交流タイムもお楽しみ！

今春、『大崎電気チームのホームとして、岩手のサポーター会員募集開始！』

⑦全日本チームの合宿招致を打診中！

⑧北日本交流大会、インターハイ予選、県民体育大会、県１年生大会、国体東北予選、ＮＴＳ東北ブロックトレーングほか各種大会イベント、花巻で目白押し！

地域のジュニア層への普及と夢のオリンピック選手の発掘育成にむけた今後の課題

①ハンドボールキャラバンの継続と新規スポーツ少年団の創成

⇒市内小学校大会開催への発展を目指して

②市内小・中学校の年間授業計画へ採択してもらうための働きかけ

⇒「ハンドボール研究」などの文献・指導用ＶＴＲの頒布と指導者講習会等の企画

③ＨＣ花巻の各カテゴリーチームの創成

⇒Ｕ－１５ブロック大会開催の働きかけと準備

④「総合型地域スポーツクラブ設立」に向けた準備

⇒シンポジウムなどへの参加と陸上・サッカー・テニス・エアロビクス等多種目の関係者、広域センター指導員・クラブマネージャー・行政とのタイアップ

他団体との交流

昨年、イーハトーヴレディース駅伝（花巻市・花巻市教育委員会・テレビ岩手主催）に花巻北高女子ハンドボール部が参加し、第３位入賞（内１人区間賞獲得）！

今年も、許すかぎり、他団体のイベントやボランティア活動への参加の可能性を探る！

岩手県初のＨＰ開設のお知らせ

盛岡のスポーツ少年団「リトルハンド」管理人：安倍富士男氏（盛岡白百合学園高校英語教諭）

→ http://abe.ihatov.jp/handball/index.htm

…盛岡や県内の情報が満載。今後、花巻でもＨＰ開設予定！

あとがき

花巻出身の詩人・童話作家の宮沢賢治は、自らが生まれ育った岩手県を“イーハトーヴ”と呼びました。エスペラント語風のこの造語には、岩手の地から常に世界を見つめ普遍性を求めた賢治の開かれた世界観が示されています。この岩手を故郷とするものの一人として、私も故郷を愛し、常に外の世界をみつめながら、多くの仲間とともにハンドボールの普及と発展につとめることをライフワークとしていきたいと思っています。

二回にわたり掲載の機会を頂くことができたことに感謝するとともに、全国に一層ハンドボールの輪が広がっていくことを念願しています。

花巻北高等学校 E-mail：hand-nakaji@hkn-h.iwate-ed.jp

※次号（５月号）において本稿番外編として花巻市人物紹介を掲載いたします。

競技委員会通達

各ブロック協会理事長
各連盟理事長殿
各都道府県協会理事長
各加盟団体競技運営担当者殿

(財)日本ハンドボール協会　競技運営部長
常務理事　江成　元伸

ゴール等競技用具の安全管理について（通知）

拝啓　時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は本協会の競技運営に格別のご尽力を賜りましてありがとうございます。

さて、最近、学校においてサッカーゴールの転倒により、生徒の死亡事故が発生したとの報道がありました。ハンドボールにおいても同様に、ゴール等競技用具に起因する事故は未然に防がなければなりません。従来から、ゴールによる事故防止策については、関係方面において十分に周知徹底されていたかとは存じますが、一層のご配慮を賜り、関係方面にご連絡いただくようお願い申し上げます。

敬具

記

ゴールを使用して競技をする場合、保管する場合、状況に合わせたそれぞれの方法により、事故防止のために、より一層の安全措置を講じ周知徹底すること。

例として、「ボルトで床と固定をする」、「グランドと基部の間に杭を打つ」、「横に寝かして管理する」、「前後部のバー及び上部の金属部にぶら下がらない指示を徹底する」、「ゴールネットで遊ばない」、「競技用具本来の使用の目的以外に利用しない」等の具体策を以て、ゴール等競技用具による事故が起こらないように安全対策の再確認をすること。

審判委員会通達

ハンドボール関係者各位

(財)日本ハンドボール協会　審判部長
常務理事　齊藤　實

ステップ管理に関する通達

平成14年にIHFよりステップに関するリポートと解説映像が配布され、平成15年4月よりこれに従っての競技運営を行うことにいたしました。

我々日本ハンドボール界にとっては青天の霹靂的な解釈でありました。と申しますのも、これまでの日本の解釈は、どのようなケースであれ、空間でボールをキャッチし、その後着地した場合の歩数は0歩と数えており、別の数え方があることは全く伝えられていませんでしたし、海外で審判をした者もIHF関係者からそのような情報には全く接することがありませんでした。

さて、４月以来この感覚を取り入れようとレフェリーもプレーヤーも神経をすり減らした感があります。特にレフェリーにとっては今まで培ったリズム感を修正しなければならないという大変な事態になってしまいました。このことがプレーヤーにとっても大変迷惑を掛けることになってしまったかも知れません。

この間我々審判部スタッフはIHFやヨーロッパレフェリー、あるいは海外でプレーしているプレーヤーからも情報を集めてきました。その結果、次のような結論を出すことにいたしました。

①今回IHFから示されたステップに関する理論を否定はしない。
②スピード化の進んでいる現在のハンドボール競技の中で、これを見分けることは至難であり、プレーヤーにしても使い分けは非常に困難な状態である。
③世界の動向も、この理論を競技運営に活用されていない。
④観衆はこの違いを理解することは困難である。

したがって、（財）日本ハンドボール協会は、

「ドリブルあるいはパスであっても、空間でボールをキャッチした後の着地を０歩とする。」

尚、将来ＩＨＦの強い指導や世界の動向の変化によっては、再検討する可能性は残っています。

審判部だより

競技規則に関する通達の説明

先月号（3月号、21頁）に掲載いたしました平成16年4月1日より実施されます「競技規則及びその解釈」の説明を以下に掲載いたします。

国際ハンドボール連盟競技規則審判委員会による競技規則解釈

以下の文書は、最近になって生じた問題や質問に対する解釈・説明である。そのうちのひとつはパッシブプレーに関するもので、2003年7月発行の解説書（国内では8月に通達）で述べた競技規則の記述変更に伴って、更に変更しなければならないものである。

競技規則7：11と競技規則解釈

競技規則の記述を変更し、「攻撃側チームがシュートを打ち、ゴールやゴールキーパーから跳ね返ってきたボールを再び所持した場合、パッシブプレーの予告合図は失効する（つまり、それによってボールの所持を失うという「恐れ」がなくなる）と言うことを去る7月（国内では8月）に通達した。同様に、防御側プレーヤー（または防御側チームのチーム役員）が段階罰を適用された場合も、予告合図は失効する。

実際のところ、予告合図が失効した印として、レフェリーは直ちに腕を下ろすことになる。一方、競技規則書の競技規則解釈4における最終セクションの記述を見ると、たとえ予告合図がなお有効であっても、攻撃側チームにフリースローが与えられ（そして実施され）た後の場合にも、レフェリーは腕を下ろすよう規定されている（この規定は全く実際上の理由に基づいて記述されたものである）。しかしながら、このようなレフェリーの動作が、予告合図の失効によってレフェリーは腕を下ろすという今回新設した状況と混同されかねないことが、今や明らかになってきた。従って、より明確にするために新たな規定として、たとえ何回フリースロー（またはスローイン）が攻撃側に与えられようとも、予告合図が有効である限り、レフェリーは（腕を挙げる）ジェスチャーをし続けることとする。このようにして、状況が常に両チームによく判るようにする。

この新しい規定は、すでに男子ジュニア世界選手権大会でうまく運用されていたし、クロアチアでの女子世界選手権大会やそれ以降の全IHF主催大会でも用いていく予定である。この競技規則変更は、両チームにとってただ有益にはなりえても、混乱を来たしはしないだろうと思われるが、IHFとしては各国協会・各大陸連盟に対して、それぞれ適切な実施時期の決定を任せることにする。可及的速やかに公布してもらいたいが、いくつかの国々ではシーズン中に今回の情報を公示するのが難しいかもしれない。

競技規則4：4と競技規則第7条

「プレーヤーの交代」という見出しの下に、競技規則4：4で「プレーヤーは常に自チームの交代ラインを通ってコートに出入りする」とはっきり述べている。明らかにこの競技規則の目的は、一定の規律を維持することと、チームが急いでプレーヤーを交代さす時に不当に有利にならないようにすることにある。

有利になるため（たとえば助走のためなど）にプレーヤーがサイドラインの外側の場所を不正に利用するという行為については、違反であることをすでに確認している。

しかし、上述の2つの状況とは別に、何の影響もなく、悪用する意図も全くなくて、プレーヤーがサイドラインやアウターゴールラインを踏み越えていく状況は他に沢山ある。レフェリーは常識的に判断しこのような状況がプレーヤーに対して禁止されている行為であると解釈しないよう、強調しておく。

例としては次のようなものがある。明らかにドリンクボトルやタオルを取ろうとして、自チームのベンチ前でプレーヤーが（交代ラインのすぐ外側の）サイドラインを一時的に踏み越えるような場合、これを不正交代と見なしてはならない。同様に、ゴールキーパーが自陣のゴール横のアウターゴールラインを踏み越えて、上記と同じ行為をしようとした場合も、決してこれを罰してはならない。

退場となったプレーヤーは、気が回らなくて時折コートから交代地域へ正しく出ないことがある。見届けたいことは、プレーヤーが（余計な時間を取らせずに、文句を言わずに）コートを出てベンチに戻ることなのである。プレーヤーがたまたま交代ラインのすぐ外側を通って出て行っても、何も有利になっていないことは明らかである。

最後に、プレーヤーの怪我の状態により、ベンチから遠く離れたコートサイド（または控え室）で処置する必要のあることが一目瞭然であった場合は、決して怪我をしたプレーヤーにコートから出て交代地域に戻るよう強要してはならない。そして、レフェリーはこのような状況を注意深く観察し、怪我をしたチームメイトが完全にコートから出てしまう前であっても、交代プレーヤーがコートに入ることを特別に許可しなければならない。これは、競技の中断を極力短くするという、競技全体の目的にかなったものである。

競技規則16：8と16：11

この2つの条項により、失格または追放となったプレーヤーは「コートからも交代地域からも直ちに去らなければならない‥‥そして、チームに関与することは一切許されない」ことは明らかである。

原則として、レフェリーは失格・追放となったプレーヤーのその後の行動を管理するよう規定されており、明らかな違反があれば競技終了後に文書報告しなければならない。しかし、このようなプレーヤーに対してさらに何らかの罰則を競技中に付加することは不可能であり、もちろんそのチームのコート上のプレーヤーを減らすという判定には決してなりえない。失格や追放となったプレーヤーが競技中にコート内に入ってくるというような極端な場合であっても同様に処置する。

競技規則4：9

かなり以前からプレーヤーは、短く切ったテープをシューズに貼り、そこに粘着物（松やに）をいつでもすぐ使えるように貯めておいてプレーしてきた。この行為は、相手にとって危険であるあるとは思えないので許されてきた。しかしながら、最近になって、腕に付けた汗止め用バンドに粘着物を貯めておく行為が見られるようになった。粘着物が相手の眼に入るかもしれないので、この行為は相手を重大な危険にさらす可能性がある。したがって、競技規則4：9に則ってこのような行為を禁止、そしてレフェリーはこれを管理しなければならない。

別の問題であるが、競技規則4：9における一般的な指示として、他のプレーヤーを危険にさらす可能性のあるものを禁止している。本質的な問題として、これは競技規則に相応しい内容である。これこそ、指輪やチェーン、イヤリングなどが例として禁止されている（したがって、外すか、あるいはテープで被わなければならない）理由なのである。これに対して、普通自分自身だけが危険さらされる可能性のあるものを着用するかどうかの判断は、ここのプレーヤーに委ねることになる。最近のボディピアスの例がそうである。このようなピアスは、（舌ピアスなどの場合を除いて）普通ユニホームの下に隠れる。しかし、このようなピアスを付けてハンドボール競技を行うことに伴う危険性について考慮するよう、国際ハンドボール連盟医学委員会はプレーヤー（およびそのコーチやマネージャー）に勧告している。

平成16年（2004年）度　国内・国際大会日程

	大会名	開催日程	開催地	開催場所
4月	第1回東アジアクラブ選手権（男女）	4/13(火)～4/17(土)	韓国	
5月				
6月	第8回アジア女子ジュニア選手権	6/10(木)～6/15(火)	カザフスタン	
7月	第24回全国クラブ選手権大会・西	7/16(金)～7/18(日)	高知県	高知県民体育館、高知女子大学体育館
	第24回全国クラブ選手権大会・東	7/17(土)～7/19(月)	福島県	本宮町綜合体育館・本宮体育館・本宮高等学校体育館
	第10回アジア女子選手権 （第10回ヒロシマ国際大会）	7/20(火)～7/25(日)	広島県	
	第12回全日本マスターズ大会	7/23(金)～7/25(日)	岩手県	花巻市
	第1回アジア男子ユース選手権	7/24(土)～7/30(金)	未定	
	第17回全国小学生大会	7/30(金)～8/1(日)	京都府	京田辺市田辺中央体育館・同志社大学京田辺キャンパス体育館 他
8月	NTSブロックトレーニング	8月～9月予定	各ブロック	
	高松宮記念杯第55回全日本高校選手権大会	8/1(日)～8/7(土)	山口県	周南市文化会館・周南市綜合スポーツセンター体育館・周南市熊毛体育センター・光市綜合体育館・県立徳山高等学校体育館
	第31回全国高等専門学校選手権大会	8/7(土)～8/8(日)	愛知県	愛知県体育館
	東日本学生選手権大会	8月	北海道	未定
	西日本学生選手権大会	8/10(火)～8/14(土)	大阪府	未定
	第9回ジャパンオープントーナメント	女子8/11(水)～8/13(金) 男子8/14(土)～8/17(火)	岡山県	津山工業高等学校体育館・鏡野町文化スポーツセンター体育館・落合町綜合公園白梅綜合体育館・総社市スポーツセンター体育館・倉敷体育館
	第8回日韓スポーツ交流（受入／女子）	8/11(水)～8/16(日)	沖縄県	
	アテネオリンピック	8/14(土)～8/29(日)	ギリシャ	
	チェリーカップ第12回東日本小学生大会	8/14(土)～8/16(月)	山形県	東根市民体育館
	第33回全国中学校大会	8/21(土)～8/24(火)	千葉県	ポートアリーナ・千葉県綜合スポーツセンター体育館
	第12回日韓中ジュニア交流大会	8/23(月)～8/29(日)	中国	未定
	第8回日韓スポーツ交流（派遣／女子）	8/25(水)～8/30(月)	韓国	
9月	第6回全国全日本ビーチハンドボール選手権大会	9/4(土)～9/5(日)	千葉県	富浦町原岡海岸
	第9回アジア男子ジュニア選手権	9/7(火)～9/18(土)	インド	
	高松宮記念杯第45回全日本実業団選手権大会	9/8(水)or9/9(木)～9/12(日)	高知県	高知県民体育館・南国市立スポーツセンター
	第29回日本リーグ	9/18(土)～05年3/6(日)	各地	
10月	第59回国民体育大会	10/24(日)～10/28(木)	埼玉県	八潮市立鶴ヶ曽根体育館・八潮市立大原中学校体育館・三郷市綜合体育館・吉川市綜合体育館・埼玉県立吉川高等学校体育館
11月	高松宮記念杯男子47回女子40回全日本学生選手権	11/24(水)～11/28(日)	沖縄県	浦添市民体育館・東風平体育館
	第2回ビーチハンドボール世界選手権	11/26(金)～12/1(水)	エジプト	
12月	第56回全日本総合選手権大会	12/14(火)～12/18(土)	大阪府	大阪市中央体育館
	第13回JOCジュニアオリンピックカップ	12/25(土)～12/28(火)	大阪府	堺市家原大池体育館・金岡体育館
	第17回世界大学男子選手権	12/28(火)～05年1/4(日)	ロシア	
	第6回世界大学女子選手権	未定	未定	
	NTSセンタートレーニング	12月～1月予定	未定	未定
1月	第19回男子世界選手権	1/24(月)～2/6(日)	チュニジア	
2月	全日本実業団チャレンジ2005	2/11(金)～2/13(日)	高知県	春野総合運動公園体育館
3月	第29回日本リーグプレーオフ	3/18(金)～3/20(日)	東京都	駒沢体育館
	第28回全国高校選抜大会	3/24(木)～3/29(火)	茨城県	未定

※［　　］は国際大会　※上記の全ての国内大会にがんばれハンドボール10万人会の「パスカード」及び「ペアチケット」がご利用になれます。



平成16年1月常務理事会

日　時：平成16年1月17日(土)
場　所：岸体育館5F503号室（事務局隣り）
出席者：山下副会長、市原副会長、大西専務理事、常務理事7名、監事2名、参事2名、事務局4名

審議事項

1. 平成15年度第3次補正予算（案）
資料が提示され了承された。大西専務より、今後さらに資金繰りについて議論の必要性が述べられた。

2. 平成16年度事業計画（案）
資料が提示され、了承された。

3. 平成16年度事業予算（案）
資料が示されたが、各委員会で10％削減の案を1月25日までに再提出する。
支出に関してのチェック機関を新設する方向で検討する。
協会財政の基本は登録料と検定料であるので、両面に関して検討する。

4. 平成16年度会議の日程
資料が提示され、了承された。

5. 平成16年登録業務必携（案）
資料が提示され、了承された。
小学生は少年団扱いとし、学校長の印は必要としない。
記入項目にeメールアドレス欄を作り、書式を「エクセル」に統一した。
各都道府県協会にはCD-ROMの形で配布する。

6. アテネ予選組織委員会解散式
資料により、上記事集報告と収支決算書（案）が提示され、了承された。
組織委員会の解散式は1月31日、神戸に於いて開催する。

7. ムササビTシャツ／マーケティング委員会規程
ムササビTシャツの事業は平成15年度で打ち切る。残部は協会で販売する。
資料により提出されたマーケティング委員会規程（案）は了承された。

8. ミズノメントール賞候補者
資料により上記賞に関しての条件が示され、推薦する方向で検討。人選に関しては専務理事中心に決定する。

9. 平成16年度強化専任コーチ、ジュニアコーチ選任
上記募集に関する文書が示され、人選に関しては専務理事が中心となり、両副会長と協議して決定する。

10. 男子世界選手権アジア予選（カタール）スタッフメンバー及び危機管理に関して
資料により、上記大会のスタッフ、選手名簿が提出された。団長の人選についてほ専務理事一任とする。
危機管理に関しては改めて1月31日、神戸に於いて会長、副会長、専務理事、国際総務担当常接理事で協議する。

11. 第1回東アジアクラブ選手権
上記大会のアナウンスが資料として提示された。1月31日までに参加申し込みすることで確認。参加チームは日本リーグ1位チーム、参加経費はチーム、帯同レフェリー分を日本リーグから支出。

12. NTSとJOCジュニアカップの今後の考え方
今年度から16チームで実施し成功した。上記内容の資料がNTS運営委員長から提出された。優秀選手の選考方法についてきらなる検討が必要なことが程示され、検討することが了承された。

13. その他
ナショナルトレーニングセンターにハンドボールコート2面が取れる体育館の計画があることが市原副会長から報告された。日本協会として使いこなす計画を立てることが提案された。

報告事項

1. 競技者育成技術委員会
競技者育成技術委員会の議事録が提出された。
「ミニハンドボール（CD-ROM付）」の作成が報告された。一般に販売する。
普及マニュアルを作成し配布する。

2. 技術規則に関する通達
競技規則に関する通達が提出され、2004年4月1日から実施する旨報告された。

3. 日本リーグ・プレーオフ
資料により、今年度日本リーグ・プレーオフの要領が示された。
今年度オールスター大会を3月28日周南市にて実施する。次回オールスターは熊本。

4. IHF臨時総会アンケート回答
上記回答が市原副会長より示された。

5.10万人会について
10万人会の現状が資料により説明された。グリープ会員の成功例（秋田県）が示された。今後さらなる研究が必要と報告された。

6. 国内・国際大会日程
上記（案）が資料により提出された。

7. 田中茂GM担当報告書
上記報告書が資料により提示された。

8. その他
大西専務理事より今後海外で活躍する選手のための啓蒙の必要性が述べられ、例として機関誌への「武者修行のすすめ」のような企画が出された。
GM集中講座に日本リーグから2名が参加しているとの報告がなされた。
斎藤常務理事から浜田・小笠原ペアが世界選手権女子、仲田・植村ペアが西アジアクラブ選手権を担当し共に高い評価を受けたことが報告された。特に仲田・植村ペアは決勝を担当した。
山下副会長から常務理事会のさらなる議論の活性化の必要性が述べられた。

竹野監事より、会議の議事進行と、予算のさらなる検討についての意見があり、閉会する。

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」2月入会・継続会員

【山形】五島訓二　【群馬】関口晴久、永井栄子　【神奈川】宜保　毅、宜保紀子、田村修治　【石川】寺垣俊彦　【愛知】小山哲央、松本真実、楚南友佳子　【三重】池辺健二、荒木誠司　【京都】川原崎雅彦　【愛　媛】田中侑也

競技運営部だより

平成15・16年度「大会開催マニュアル」が発行されました

ハンドボール競技を正しく、適切に運営するために主催団体、競技運営者はもとよりチーム、選手も競技運営ガイドラインを知っておくことは大切です。この度、日本協会競技運営部では大会マニュアルを発行いたしました。ぜひご購入下さい。希望される方は下記の事項を記入の上、現金書留にてお申し込み下さい。

タイトル:『平成15.16年度競技運営マニュアル』　価　格:1冊　1000円(税、送料込み)

申込先:〒150-8050東京都渋谷区神南1-1-1　日本ハンドボール協会『平成15.16年度競技運営マニュアル』申込係

記入事項:注文冊数、購入希望者氏名、送付先(郵便番号、住所、TEL)

指導委員会だより

少年チーム創設ガイドパンフレット「少年チームを創ろう!」発行

小学生クラブの立ち上げ方法(組織作り、きまり作りなど)について分かり易く説明してあります。今から「少年チームを創ろう」と思う方は、是非ご覧下さい。パンフレット(無料)は各都道府県協会にも配布されていますので、所在地の都道府県協会宛お問い合わせください。

【4月の行事予定】

【会議】

4月10日(土):常務理事会

【大会】

4月13日(火)～17日(土):韓国(城南)
第1回東アジアクラブ選手権(男女)

HAND BALL CONTENTS Apr

(登録チームの購読料は登録料に含む)

2004コートの主役



PKCH3-AD　　¥4,600

検定球3号、アデランテ、手縫い
国際公認球、一般・大学・高校・男子用
天然皮革

PKCH2-AD　　¥4,500

検定球2号、アデランテ、手縫い
国際公認球、一般・大学・高校・女子用・中学校用
天然皮革



(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四四九号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成十六年二月二十六日印刷 平成十六年四月一日発行
東京都渋谷区神南一—一—一
電話 代表 三四八一—二三六一
振 〇〇一三〇—七—一〇二九三
編集兼発行人 大西武三
定価 年間三三〇〇円